

『三譯総解(第二)』ハングル表記満洲語文語索引*

王 海波
(嶺南師範学院)

キーワード: 『三譯総解』、ハングル表記、満洲語文語

1. はじめに

朝鮮時代の司譯院は、外交通訳を担うと同時に、外国語教育機関としても機能していた。ここには漢学・倭学・蒙学・女真学の四学が置かれ、満洲人の入関後には女真学が清学へと改められた。現存する清学書としては、読本類の『八歳兒』・『小兒論』・『三譯総解』・『清語老乞大』と、辞書類の『同文類解』・『漢清文鑑』が挙げられる(小倉 1914a: 44-45; 1914b: 257-262; Lie 1972: 19-21; 邵磊 2011: 290)。

清学書におけるハングル表記の満洲語文語は、必ずしも満洲文字で書かれた満洲語文語を一对一で転写したものではない。例えば、満洲語文語の CVwV (C=子音、V=単母音または二重母音) に相当する語形が、ハングル表記では1音節で書かれる場合もあれば、2音節で書かれる場合もある。また、満洲語文語の e に対応するハングル表記や io に対応するハングル表記などにも、それぞれ複数の対応形式が見られる。ハングル表記の満洲語文語は、満洲文字では表しきれない発音上の細部を、ある程度反映している可能性がある。清学書における満洲語文語の満洲文字表記とハングル表記の対応関係に関する研究としては、池上(1951; 1954; 1963)、今西(1958)、성백인(1984)、岸田(1989)、Ikegami(1990)、崔宰宇(1997)、菅野(2005)、邵磊(2011; 2016)、和田(2013)、王敵非(2013)、邵磊・多麗梅(2022; 2023)、邵磊・金龍軍(2022)、邵磊・林茶英(2022)、邵磊・王敵非(2022)、邵磊・任國俊(2023)などが挙げられる。

満洲文字とハングルの表記対応の問題を検討するには、ハングルで記された満洲語文語の語を、対応するメレンドルフ式転写にもとづいて配列し、整理する作業が有効であると考えられる。そこで本稿では、清学書『三譯総解』(全十巻)の第二巻(『三譯総解(第二): 關雲長千里獨行』)にあるハングル表記の満洲語文語の語について、メレンドルフ式転写にもとづき索引を作成する。

2. ハングル表記満洲語文語の索引

次表は、清学書『三譯総解(第二)』におけるハングル表記の満洲語文語の語形を、メレンドルフ式転写のアルファベット順に配列したものである。

[1] 第1列には、満洲文字で書かれた語のローマ字転写(メレンドルフ式転写)と、その語の和訳を示している。和訳については、羽田(1937)、田村ほか(1966-1968)、福田(2008)等を参考にした。なお、和訳は『三譯総解』中の文脈に限定した意味ではなく、一般的な語義に基づくものとする。

[2] 第1列の動詞については、原則として未完了形とその和訳を記載している。ただし、『三譯総解』における記録が未完了形以外の形式である場合には、第1列に未完了形と和訳を示すとともに、その下の行には、対応する語形を併記している。

* 本稿は、中国国家社会科学基金後期資助項目「満語支語言音系学研究」(課題番号 22FMZB009)の助成を受けた研究成果の一部である。

[3] 第2列には、『三譯総解』に見られるハングル表記の満洲語文語の語形を示している。
 [4] 第3列は、当該語形が『三譯総解』原書のどこに出現しているかを示したものである。たとえば「(2-1a-3-4)」は「第2巻-第1葉a面-第3行-第4語」を表す。「第X語」とは、ハングル表記の満洲語文語のみを対象に順に計数した場合のX番目に現れる語を指す(ハングル表記の満洲語文語以外の語は計数から除外する)。

表1:『三譯総解 (第二)』ハングル表記満洲語文語索引

メレンドルフ式転写と和訳	ハングル表記	出現箇所
abka「空」	압카	(2-19b-5-5)
abkai「空(そら)の」	압캐	(2-1b-1-2) (2-4b-6-3) (2-12a-3-4) (2-22a-3-4)
absi「どう；なんと；どこに」	압시	(2-24b-1-2) ¹
acabumbi「会わせる；合わせる」	---	---
acaburengge	아차부렁거	(2-4a-6-7) ²
acambi「会う；合う」	아참비	(2-1b-3-5) (2-15a-6-7)
acaci	아차치	(2-13b-2-4)
acaha	아차하	(2-24a-6-2)
acarakū	아차라쿠	(2-1b-6-6) (2-2a-6-5) (2-2b-1-4) (2-11b-3-7)
acanambi「会いに行く；合っている」	---	---
acanaci	아차나치	(2-11b-3-5)
acanjimbi「会いに来る」	---	---
acanjihakū	아찬지하쿠	(2-5a-4-1)
adarame「如何に」	아다라머	(2-2b-1-3) (2-21a-6-6)
afambi「攻める、戦う」	아팜비	(2-10a-1-1)
agūra「豹尾槍(槍の一種)；兵器；機械」	아구라	(2-8b-5-4)
	이구라 ³	(2-10b-6-8)
ahūn「兄」	아훈	(2-8b-6-3) (2-9b-1-1) (2-9b-3-6) (2-21b-4-6) (2-24b-3-3)
ai「何；何の」	애	(2-7b-3-1) (2-11a-2-5) ⁴ (2-20a-3-5)
aibide「どこに」	애비더	(2-18a-4-6)
aifumbi「食言する」	---	---
aifuha	애푸하	(2-12a-4-5)
aifure	애푸러	(2-12a-2-5)

¹ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

² 岸田(1997:161)によれば、『満文三國志』および『満漢合璧三國志』では、対応箇所における語形はいずれも araburengge である。一方、『三譯総解』では acaburengge と記されており、acaburengge kai に対応する原書の朝鮮語訳は「만나게 혼거시니」(会わしめたものであるが)である。岸田も指摘しているように、『三譯総解』のこの箇所の acaburengge は誤記であり、『三譯総解』の編集者が araburengge における満洲文字の最初の r を c と見誤ったことに起因すると考えられる。

³ 原書の当該箇所では、「아구라」ではなく「이구라」と記されている。これは誤記であるか、あるいは墨の欠落によるものと考えられる。

⁴ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

aikabade 「もし」	애카바더	(2-12a-5-3) (2-13b-2-3) (2-14a-4-3) (2-16b-3-5)
ainambi 「何をする、どうする」	---	---
ainaha	애나하	(2-7a-2-6) (2-8a-2-2) (2-15a-2-1) (2-16b-1-3)
ainara	애나라	(2-12a-1-3)
ainu 「なぜ」	애누	(2-8b-5-6) (2-21b-2-4) (2-25b-2-2)
aisin 「金」	애신	(2-3a-3-2) (2-5b-1-3) (2-5b-3-4) (2-6b-4-5) (2-11b-4-4) (2-12b-3-5) (2-12b-6-2)
ajige 「小さい」	아지거	(2-3a-4-3) (2-4a-1-5) (2-9b-3-1) (2-22b-1-2)
ajigen 「小さい、幼い」	아지건	(2-3a-1-4)
akdun 「頑丈な ; 信用ある」	악둔	(2-5a-1-2) (2-12a-3-6)
akū 「ない」	아쿠	(2-2a-1-3) (2-3b-2-4) (2-4a-3-7) (2-5a-1-3) (2-5a-4-5) (2-8b-5-1) (2-8b-5-5) (2-9a-2-4) (2-10b-6-9) (2-12a-6-4) (2-14b-5-1) (2-18b-6-6) (2-25a-4-3) (2-25b-6-2)
akūci 「なければ ; でなければ」	아쿠치	(2-25b-3-5)
akūmbumbi 「尽くす」	---	---
akūmbukini	아쿰부키니	(2-2a-3-5) (2-9b-2-2) ⁵
alambi 「告げる」	아람비	(2-17b-6-6)
ala	아라	(2-16b-6-5)
alafi	아라피	(2-19b-4-6)
alame	아라머	(2-20a-5-4) (2-22b-3-3)
alanambi 「知らせに行く」	---	---
alanaha	아라나하	(2-24a-2-1)
aldangga 「遠縁の」	알당가	(2-5b-5-3)
alhūdambi 「手本にする」	---	---
alhūdaci	알후다치	(2-1b-3-4) (2-15a-6-6)
alimbi 「受ける ; 引き受ける」	---	---
alime	아리머	(2-14a-2-6) (2-18a-3-4)
alin 「山」	이린 ⁶	(2-15b-5-2)
	아린	(2-16a-5-7) (2-17a-6-1) (2-17b-1-6) (2-18a-1-2) (2-18a-6-2) (2-19b-2-6)
aliyakiyambi 「ぼつぼつ歩きながら待つ」	---	---
aliyakiyame	아라카머	(2-7b-3-5)
aljami 「離れる ; 顔色を変える」 (angga aljami 「約束する」)	---	---

⁵ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

⁶ 原書の当該箇所では、「아린」ではなく「이린」と記されている。これは誤記であるか、あるいは墨の欠落によるものと考えられる。

aljaha	알자하	(2-4b-4-4)
aljahakū	알자하쿠	(2-22a-2-1)
amaga 「後来の、将来の」	아마가	(2-13b-2-1)
amala 「後ろ(に) ; 後に ; これから」	아마라	(2-4b-1-2) (2-6a-2-1) (2-6b-4-1) (2-10a-5-3)
amargi 「北 ; 後ろ」	아말기	(2-7b-5-3) (2-24b-3-1) (2-24b-5-1)
amasi 「後ろに」	아마시	(2-8a-6-1) (2-10a-1-3) (2-11b-6-5) (2-15a-4-4)
amba 「大きい」	암바	(2-3a-2-3) (2-4a-2-3) (2-6b-2-2) (2-8a-4-4) (2-13a-3-5) (2-17b-6-3) (2-22a-5-4)
ambula 「多い ; 大いに」	암부라	(2-6a-1-1) (2-13a-5-6)
	암부하 ⁷	(2-20b-3-5)
amcabumbi 「追わせる ; 追われる」	---	---
amcabufi	암차부피	(2-4b-2-4)
amcaburakū	암차부라쿠	(2-1b-4-5)
amcambi 「追う」	---	---
amcaci	암차치	(2-15a-3-1)
amcafi	암차피	(2-4b-5-4)
amcaki	암차키	(2-1a-5-3)
amcame	암차머	(2-15b-3-1)
amcara	암차라	(2-5a-3-1) (2-7b-2-4) (2-9a-6-7)
anabumbi 「押させる ; 押される ; 譲る ; 負ける」	---	---
anaburakū	아나부라쿠	(2-18a-2-3)
anambi 「押す」	---	---
aname	아나머	(2-18b-2-4)
andande 「瞬時に」	안단더	(2-3b-1-2)
angga 「口」	앙가	(2-4b-4-3)
antaka 「どうか」	안타카	(2-2a-2-1)
arabumbi 「作らせる ; 書かせる」	---	---
arabuha	아라부하	(2-22a-6-2)
arambi 「作る ; 書く ; ~のふりをする」	---	---
arafi	아라피	(2-11a-4-7) (2-11b-4-3) (2-20a-5-3) (2-21b-4-8)
araha	아라하	(2-3a-4-5) (2-22b-1-8)
arame	아라머	(2-4a-3-5)
arara	아라라	(2-11b-4-1)

⁷ 原書の当該箇所では、ハングル表記による満洲語文語は「암부하」(ambuha)と記されているが、対応する満洲文字表記は ambula である。当該ハングル表記「암부하」(ambuha)は、「암부라」(ambula)の誤記であると考えられる。

argadambi 「計略を用いる」	알가담비	(2-16b-4-1)
ashan 「傍ら」	앗한	(2-2b-6-2)
asiha 「若い；若者」	아시하 ⁸	(2-26a-4-7)
aša 「兄の妻」	아샤	(2-18b-4-4) (2-19b-4-3) (2-21a-6-3) (2-21b-6-3) (2-23a-4-4)
ayoo 「～ではあるまいか」	아오	(2-12a-6-5) (2-16b-4-2)
ba 「所；里(距離単位)」	바	(2-15b-3-4)
ba 「漢語霸」 (ba ling 「霸陵」)	바	(2-10a-2-3)
babe 「所/里を」	바버	(2-7b-1-8)
bade 「所/里に」	바더	(2-22b-5-7)
bahambi 「得る」	---	---
bahafi	바하피	(2-11b-3-6) (2-13b-5-5) (2-25a-3-1)
bahakū	바하쿠	(2-3b-4-1)
bai 「所/里の」	배	(2-17a-1-4)
baili 「恩情」	배리	(2-4a-1-6) (2-13b-3-1)
baimbi 「探す；求める」	---	---
baime	배머	(2-24b-3-6)
baire	배러	(2-15b-4-4)
baitalambi 「使う」	---	---
baitalame	배타라머	(2-12b-5-2)
baitalara	배타라라	(2-6b-4-4) (2-12a-6-2) (2-12b-1-3)
bakcin 「相手、敵手」	박친	(2-24b-5-8)
balai 「みだりに」	바래	(2-4a-3-1)
baniha 「感謝」	바니하	(2-14b-2-1) (2-19a-3-7)
banimbi (dere banimbi = dere banjimbi 「依怙最眞する」)	---	---
banici	바니치	(2-6a-6-4)
banjimbi 「暮らす；生む；生 まれる」	---	---
banjici	반지치	(2-21b-5-1)
banjifi	반지피	(2-25b-1-4) (2-26a-6-3)
banjihabi	반지하비	(2-2b-3-7)
banjiki	반지키	(2-18a-1-5) ⁹

⁸ 当該語は『増訂清文鑑』では asihan と綴られている。asihan 「少」などの見出し語を参照されたい。一方、『大清全書』では asiha と綴られている。見出し語 asiha 「幼少。」を参照されたい。『三譯総解』の当該箇所では、満洲文字表記・ハングル表記のいずれも、asiha に対応する形で現れている。なお、岸田 (1997: 168) によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』における対応箇所の語形は、それぞれ asihan と asigan である。

⁹ 当該箇所の banjiki は、『三譯総解 (第二)』原書において bi alin ci wasime banjiki seci という文脈に出現しており、同書で示された朝鮮語訳は「내산에서 노리와살오려호되」である。banjiki に対応する朝鮮語訳は「살오려」(生かそうと) である。しかし、岸田 (1997: 163) も指摘してきるように、漢文『三国志演義』における対応箇所では、対応する動詞は「送」である。従って、『三譯総解』におけるこの banjiki は banjiki 「送ろうと」の誤記であると考えられる。なお、岸田によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』における対応箇所の語形は、いずれも banjiki である。

baru 「～に向かって」	바루	(2-21b-4-5) (2-23b-1-3) (2-24a-5-7)
baturilembi 「勇む」	---	---
baturileme ¹⁰	바투리러머	(2-25b-6-5)
be 「を」	버	(2-1a-3-4) (2-1a-6-5) (2-1b-4-4) (2-2a-3-4) (2-2a-5-3) (2-3b-1-4) (2-3b-5-2) (2-3b-5-8) (2-4a-1-7) (2-4a-2-5) (2-4a-6-2) (2-4a-6-5) (2-4b-1-4) (2-4b-2-3) (2-5b-1-7) (2-5b-3-8) (2-5b-4-3) (2-5b-5-2) (2-5b-6-3) (2-6a-4-2) (2-6a-6-2) (2-7a-4-5) (2-7a-5-2) (2-7b-3-4) (2-7b-4-1) (2-8a-1-7) (2-8a-3-3) (2-8a-4-2) (2-8a-4-6) (2-8b-1-7) (2-8b-2-4) (2-8b-6-4) (2-9b-1-2) (2-9b-2-1) (2-9b-3-7) (2-10a-4-5) (2-10b-2-4) (2-10b-3-7) (2-10b-4-4) (2-11a-1-1) (2-11a-4-4) (2-11b-5-2) (2-11b-5-5) (2-11b-6-3) (2-12a-2-3) (2-12a-3-7) (2-12a-4-4) (2-12b-4-7) (2-12b-6-3) (2-13a-1-7) (2-13a-6-2) (2-13b-1-3) (2-14a-1-3) (2-14a-2-3) (2-14a-4-2) (2-14a-6-5) (2-15a-4-2) (2-15a-6-5) (2-15b-2-6) (2-16a-5-5) (2-16b-3-4) (2-16b-

¹⁰ 母音調和に従えば、baturileme ではなく、baturilame のはずである。しかし、『三譯総解』の当該箇所では、満洲文字表記・ハングル表記のいずれも、baturileme に対応する形で現れている。岸田 (1997: 161) によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』では、対応箇所における語形はいずれも baturilame である。『大清全書』・『満漢同文分類全書』・『増訂清文鑑』のいずれにおいても baturula- の語幹形を収録している。『大清全書』の見出し語 sirame faitafi der seme jifi baturulame šuwe dosifi 「横衝一擁前来。」、『満漢同文分類全書』の見出し語 fafuršame baturulambi 「奮勇」、『増訂清文鑑』の見出し語 baturulambi 「勇往」を参照されたい。また、『大清全書』には baturula- の語幹形も収録されている (baturulambi 「奮勇。勇於作事。」などの見出し語を参照されたい)。Захаров (1875: 476) も baturulambi の語形に言及している。以上の四つの語幹形をまとめると、次表のとおりになる。なお、表中の『満文三国志』および『満漢合璧三国志』の範囲は、『三譯総解 (第二)』に対応する部分のみである。

表 2: baturula- およびその変種の出現例

	baturula-	baturula-	baturila-	baturile-
『大清全書』	sirame faitafi der seme jifi baturulame šuwe dosifi 「横衝一擁前来。」	baturulambi 「奮勇。勇於作事。」 など	---	---
『満漢同文分類全書』	fafuršame baturulambi 「奮勇」	---	---	---
『増訂清文鑑』	baturulambi 「勇往」	---	---	---
『三譯総解 (第二)』	---	---	---	baturileme
『満文三国志』	---	---	baturilame	---
『満漢合璧三国志』	---	---	baturilame	---

上表の動詞語幹 baturila- などの語基は、独立語としては通常 baturu の語形で現れるが、しかし、baturu および baturi の形式も存在する。例えば、『大清全書』および Захаров (1875: 476) は baturu に加えて baturu の語形も収録している。baturi の形式については、清代文献における用例として綿貫ほか (2023: 163) などを参照されたい。また、『李氏譜系』には「李把圖理」という名が記されており (園田 1938: 93-94)、ここの「把圖理」は baturi の漢字音写である可能性がある。現代の満洲語三家子方言における baturi の例としては、季永海ほか (1989: 107) が記録した pat'uri や、恩和巴圖 (1995: 169) が記録した ba:ture/ba:túre などが挙げられる。恩和巴圖 (1995) における [e] は音素 /i/ の異音と考えられ、これに対して音素 /e/ の代表的な異音は [u] である。

なお、Rozycki (1983: 43) などによれば、満洲語の baturu はモンゴル語の bayatur からの借用語である。ツングース諸語における対応語は Цинциус и др. (1975: 61-62) を参照されたい。

		5-3) (2-16b-6-4) (2-17b-1-4) (2-17b-5-3) (2-17b-6-5) (2-18a-3-1) (2-18a-3-6) (2-18b-2-3) (2-18b-4-1) (2-19a-2-5) (2-19a-4-6) (2-19a-5-4) (2-19b-2-4) (2-19b-4-2) (2-19b-5-2) (2-20b-1-7) (2-20b-6-7) (2-21a-2-1) (2-21a-5-2) (2-21a-6-4) (2-21b-6-4) (2-22a-1-9) (2-22a-5-3) (2-22b-2-5) (2-23a-4-5) (2-23b-5-6) (2-23b-6-3) (2-24a-3-6) (2-24b-3-5) (2-26a-4-8) (2-26a-6-8)
becunumbi 「喧嘩する」	---	---
becunure	벼쥬누리	(2-25b-5-4)
bederebumbi 「返す」	---	---
bederebufi	벼드러부피	(2-12a-1-1) ¹¹
bederebuhe	벼드러부허	(2-1b-5-1) (2-5a-6-6)
bederembi 「戻る、帰る、退く」	---	---
bederefi	벼드러피	(2-2a-3-2) (2-10a-2-2)
bederehebi	벼드러허비	(2-22b-5-8)
bederere	벼드러러	(2-15a-4-5)
benembi 「送る」	---	---
beneki	벼너키	(2-19a-5-5)
benjimbi 「送ってくる」	---	---
benjifi	변지피	(2-23a-3-5)
benjihe	변지허	(2-12b-1-6) (2-14a-3-2) (2-18a-3-7)
beye 「体 ; 自分」	벼여	(2-8b-4-4) (2-11a-4-3) (2-14b-1-1) (2-16a-3-3)
bi 「私」	비	(2-4b-4-1) (2-5a-6-5) (2-5b-6-4) (2-6b-1-6) (2-6b-3-6) (2-7a-3-4) (2-9b-6-2) (2-11a-5-3) (2-12a-3-3) (2-15a-2-2) (2-17b-2-4) (2-17b-4-1) (2-18a-1-1) (2-18a-2-5) (2-20a-5-5) (2-21b-3-4) (2-25a-5-2)
bi 「ある ; いる」	비	(2-6b-1-5) (2-7b-3-2) (2-9a-4-4) (2-11b-1-3) (2-18a-4-7) (2-20b-5-6)
bici	비치	(2-18b-6-7)
bifi	비피	(2-2b-3-3)
bihe	비허	(2-5a-6-4) (2-11a-6-2) (2-17b-2-3) (2-22b-5-4)
bihengge	비헝거	(2-1a-4-3)
bikai	비캐	(2-18b-5-6)
bio	빈	(2-12a-4-7)
bisu	비수	(2-25a-5-1)
birai 「川の」	비래	(2-24b-2-7) (2-24b-4-4)

¹¹ 原書の当該箇所では印刷が不鮮明なため、「벼드러부피」が「벼드러브피」のように見えるが、本来は「벼드러부피」と書かれていたものと考えられる。

bithe 「本；字；学識」	받히	(2-4a-3-4) (2-11b-4-2) (2-25a-1-4) (2-25a-4-2) (2-25b-6-1)
bolgo 「清潔な」	볼고	(2-15b-1-4)
bolori 「秋」	보로리	(2-6b-5-2)
boo 「家；部屋」	보	(2-20a-1-1)
boode 「家/部屋に；家/部屋で」	보더	(2-19b-6-3) (2-20b-4-1) (2-21a-2-5) (2-22a-5-5) (2-22b-1-3) (2-23a-1-2)
booi 「家/部屋の」	부	(2-20b-6-5)
bucembi 「死ぬ」	---	---
buceci	부쳐치	(2-21b-5-2)
buceme	부쳐머	(2-9b-6-4)
bumbi 「与える」	---	---
buci	부치	(2-12b-3-7)
buhe	부히	(2-5b-1-2) (2-11b-6-1) (2-14b-1-6) (2-19a-4-1)
buhengge	부형거	(2-12b-4-6)
bume	부머	(2-3a-4-1)
bure	부리	(2-13a-1-5)
cang 「漢語長」 (yūn cang 「雲長」)	창	(2-5a-3-6) (2-5b-2-5) ¹² (2-6a-3-4) (2-6b-1-2) (2-7a-2-5) (2-7a-6-5) (2-7b-6-2) (2-11a-2-4) (2-13b-4-3) ¹³ (2-14a-3-5) (2-15a-6-4) (2-15b-6-2) (2-16b-3-2) (2-19b-3-2) (2-25b-1-2) (2-26a-2-2) (2-26a-6-1)
ceng 「漢語程」 (ceng ioi 「程昱」)	청	(2-1b-5-3) (2-2a-4-1) (2-2b-2-1) (2-5a-3-2) (2-6a-1-3) (2-7a-2-1)
cenghiyang 「漢語丞相」	청향	(2-1b-6-4) (2-2a-4-4) (2-2b-5-4) (2-3b-1-3) (2-3b-3-4) (2-4a-2-1) (2-6a-2-4) (2-8b-6-2) (2-9a-3-4) (2-9a-5-3) (2-9b-5-3) (2-11a-5-5) (2-11b-2-3) (2-11b-6-6) (2-12a-1-4) (2-13a-5-4) (2-14b-1-4) (2-24b-2-3) (2-24b-5-6) (2-25a-6-1)
ceo 「漢語醜」 (wen ceo 「文醜」)	초	(2-20b-1-6)
ci 「より」	치	(2-3a-3-4) (2-7b-5-4) (2-14a-5-2) (2-14b-3-4) (2-16a-6-1) (2-16b-2-4) (2-17a-6-2) (2-18a-1-3) (2-18b-3-4) (2-20a-4-4) (2-21a-2-3) (2-23a-5-2) (2-24a-3-2) (2-24a-4-2) (2-24a-5-2) (2-24b-2-4)

¹² 原書の当該箇所では印刷が不鮮明なため、「원 창」が「원 차」のように見えるが、本来は「원 창」と書かれていたものと考えられる。

¹³ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

cihai 「任意に」	치해	(2-9b-1-3)
cinglung 「漢語青龍」	칭룽	(2-8b-2-2) (2-14a-5-4)
cirhūmbi 「弓を引き絞りつ つ、途中でその動作を止め る」	---	---
cirhūfi	칠후피	(2-16b-5-4)
citu 「漢語赤兎」 ¹⁴	치투	(2-7b-1-3) (2-8b-1-5)
cohome 「特に」	초호머	(2-9a-1-4) (2-24b-2-6) ¹⁵
cooha 「兵；軍」	초하	(2-9b-5-5) (2-12b-6-4) (2-24a-1-5) ¹⁶
cu 「漢語楮」 (sioi cu 「許楮」)	쑤	(2-10a-5-5) (2-14b-4-2)
cuwangnambi 「掠奪する」	---	---
cuwangname	창나머	(2-17a-3-4)
da 「根；起源；長」	다	(2-1a-6-3)
dabagan 「峠」	다바간	(2-23b-6-2) (2-24a-1-1)
dabambi 「越える」	---	---
dabaha	다바하	(2-14b-5-2)
dabame	다바머	(2-23b-6-4)
dabgimbi 「馬に鞭をあてる」	---	---
dabgime ¹⁷	답기머	(2-8b-1-1)
dabumbi 「数の内に入れる； 点ける」	---	---
dabufi	다부피	(2-23a-2-2)

¹⁴ 『三譯総解』の(2-7b-1-3), (2-8b-1-5)に見られる「赤兎」の満洲語文語は、満洲文字表記・ハングル表記のいずれも citu に対応する形で現れているが、『満漢合璧三國志』では、対応箇所における語形はそれぞれ citu と c'ytu である。岸田 (1997: 162) も『三譯総解』(2-8b-1-5)にある citu と『満漢合璧三國志』の対応箇所にある c'ytu の違いについて言及している。

¹⁵ 原書の当該箇所では印刷が不鮮明なため、「초호머」が「초호머」のように見えるが、本来は「초호머」と書かれていたものと考えられる。

¹⁶ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

¹⁷ 『増訂清文鑑』では、dabkimbi は「拍馬」(馬に鞭をあてる)および「重貼壞處」(弓などの折れかかった所を固く繕う)と、dabgimbi は「手拔草」(手で草を筆り取る)とそれぞれ訳されている。これらに関連する語として、『大清全書』には、dabgime 「拍馬。申言之申。」、dabgime niyeceme etucina 「(漢訳無し)」、dabgiyaha 「芸草。拔草。拔草除根。」、dabgiyame yangsame 「耘籽耘者除草也籽者壅禾根也。」、dabgiyeme yangsambi 「耘。籽。鋤地。」などが収録されている。『三譯総解』の当該箇所における dabgime は「馬に鞭をあてて」という意味であり、満洲文字表記・ハングル表記のいずれも dabgime に対応する形で現れている。以上を次表のとおりにとめることができる。なお、岸田 (1997: 162) によれば、『満文三國志』および『満漢合璧三國志』では、対応箇所における語形はいずれも dabkime である。

表3: dabki-, dabgi- などの出現例

	大清全書	増訂清文鑑	三譯総解 (第二)
馬に鞭をあてる	dabgime 「拍馬。申言之申。」	dabkimbi 「拍馬」	dabgime
繕う	dabgime niyeceme etucina 「(漢訳無し)」	dabkimbi 「重貼壞處」	---
草を筆り取る	dabgiyaha 「芸草。拔草。拔草除根。」 dabgiyame yangsame 「耘籽耘者除草也籽者壅禾根也。」 dabgiyeme yangsambi 「耘。籽。鋤地。」	dabgimbi 「手拔草」	---

daci 「もとより」	다치	(2-16b-6-7)
dahambi 「付き従う ; 従う ; 降伏する」	---	---
dahaha	다하하	(2-2b-5-3)
dahahabi	다하하비	(2-10b-1-2)
dahame	다하머	(2-4b-4-5) (2-19b-5-3) (2-22a-1-1)
dahara	다하라	(2-8a-3-1) (2-17b-2-5)
dain 「戦い ; 軍隊」	덴	(2-22a-1-4) ¹⁸
dalbade 「傍らに/で」	달바더	(2-21a-4-1)
damtun 「質種」	담툰	(2-26a-5-1)
damu 「もっぱら ; ただ ; かし」	다무	(2-1a-2-7) (2-9b-2-4)
dargiyambi 「振り上げる」	---	---
dargiyafi	달가피	(2-26a-6-5)
dargiyaka ¹⁹	달가카	(2-16b-5-1)
de 「に ; で」	더	(2-1b-6-5) (2-2a-3-1) (2-2b-2-6) (2-2b-5-1) (2-3a-3-1) (2-3a-3-6) (2-3a-6-5) (2-4a-5-5) (2-4b-6-2) (2-5a-2-5) (2-6b-4-3) (2-7b-5-2) ²⁰ (2-8b-4-5) (2-8b-5-3) (2-10a-3-2) (2-10b-3-5) (2-10b-5-2) (2-11a-4-2) (2-11a-5-6) (2-11b-1-2) (2-11b-3-3) (2-11b-6-7) (2-12a-5-2) (2-12a-6-1) (2-12b-1-2) (2-12b-6-7) (2-13a-3-7) (2-13a-3-9) (2-14a-1-6) (2-14b-1-2) (2-15a-1-5) ²¹ (2-15a-4-6) (2-15a-4-8) (2-15b-1-3) (2-15b-5-1) (2-16a-2-4) (2-16a-3-4) (2-16b-2-7) (2-17a-6-6) (2-17b-3-2) (2-17b-4-4) (2-18a-6-3) (2-18b-5-5) (2-19a-1-3) (2-19a-3-5) (2-19a-5-7) (2-19b-2-7) (2-19b-4-5) (2-20b-5-3) (2-21a-5-5) (2-22b-1-6) (2-23a-4-7) (2-23b-1-8) (2-23b-6-6) (2-24a-1-10) (2-24b-3-2) (2-25a-1-2) (2-25a-6-2) (2-25b-3-3) (2-26b-1-3)
	디 ²²	(2-10b-6-6)

¹⁸ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

¹⁹ 『三譯総解』の当該箇所において「勒馬停刀」を表す満洲語は、満洲文字表記・ハングル表記のいずれも morin tatafi dargiyaka loho be cirhūfi に対応する形で現れている。岸田 (1997: 154-263) は『三譯総解』・『満文三国志』・『満漢合璧三国志』の対校表を作成しているが、当該箇所における dargiyaka の語形の違いについては言及していない。一方、『大清全書』にも morin tatafi dargiyaha loho be cirhūfi 「勒馬停刀」の例が収録されているが、対応語形は dargiyaha と綴られている。また、『大清全書』には dargiyambi -ha 「挺槍之挺。搦管之搦。」の見出し語が収録されており、ここでも同様に dargiyaha の語形が確認できる。なお、『満露辞典』(Захаров 1875: 796)においても、dargiya- に付く完了接辞は -ha である。

²⁰ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

²¹ 原書の当該箇所では印刷が不鮮明なため、「더」が「디」のように見えるが、本来は「더」と書かれていたものと考えられる。

²² 原書の当該箇所では、「더」ではなく「디」と記されている。これは誤記であるか、あるいは墨の欠落によるものと考えられる。

dedumbi 「横になる」	---	---
deduhe	더두허	(2-23a-1-3) ²³
deduki	더두키	(2-19b-6-4)
dele 「上(に) ; 皇上」	더러	(2-5b-4-4) (2-12b-3-2)
deleli 「上 ; 分を越えた ; 上調子な」	더러리	(2-3b-4-2)
delhembu 「別れる ; 分家する」	---	---
delhefi	덜허피	(2-24b-2-5)
dengjan 「灯火(漢語燈盞)」	등잔	(2-23a-2-1)
deo 「弟」	뎨	(2-9b-3-2) (2-20a-6-4) (2-21b-4-7)
dere 「顔 ; 机 ; 方」	더러	(2-6a-6-3) (2-6b-2-3)
dere 「～であろう」	드러	(2-4b-2-6) (2-13a-4-3) (2-14b-5-4) (2-25a-1-6)
dergi 「上 ; 東」	덜기	(2-2a-1-1)
deyembi 「飛ぶ」	---	---
deyere	더여러	(2-10a-4-7)
di 「漢語帝」 (hūwan di 「桓帝」)	디	(2-22b-4-3)
ding 「漢語亭」 ²⁴ (šeo ding heo 「寿亭侯」)	딩	(2-3a-5-3)
diyan 「漢語典」 (li diyan 「李典」)	단	(2-10a-6-6)
dobori 「夜」	도보리	(2-11b-1-6) (2-22b-6-2)
dolo 「内」	도로	(2-1a-2-6) (2-2a-6-3) (2-22a-1-6)
donjimbi 「聴く」	---	---
donjifi	돈지피	(2-1a-5-2) (2-19a-2-6)
doro 「道理 ; 礼儀」	도로	(2-5a-4-4) (2-11a-4-6) (2-12a-4-6) (2-14b-4-7) (2-20a-5-2) (2-22a-1-8)
dorolombi 「礼を執る」	---	---
dorolome	도로로머	(2-19a-3-6) (2-24a-6-1)
doron 「官印」	도론	(2-11b-5-4)
dosimbi 「入る ; 進む ; 進撃する」	---	---
dosika	도시카	(2-21a-2-6)
dosiki	도시키	(2-20b-4-2)
du 「漢語杜」 (du yuwan 「杜遠」)	두	(2-17a-5-5) (2-18a-1-7) (2-19a-1-1)

²³ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

²⁴ 『對音輯字』(下巻第5葉a面)では、漢字「亭」に対応する満洲文字は **ting** である。一方、『三譯總解(第二)』において「寿亭侯」を表す語は、満洲文字表記・ハングル表記のいずれも **šeo ding heo** に対応する形で現れている。岸田(1997: 161)によれば、『満文三國志』および『満漢合璧三國志』では、対応箇所における語形はいずれも **šeo ting heo** である。なお、『三譯總解(第一)』における「鳳儀亭」の「亭」は、満洲文字表記・ハングル表記のいずれも **ting** に対応する形で現れている(王海波 2026: 25)。岸田(1997: 90)もこの点について言及している。

dubei 「(刀などの)先の/で」	두베	(2-14a-6-2)
duin 「四」	뉘	(2-15b-4-2)
duka 「門」	두카	(2-23b-1-7) (2-23b-3-4)
dukai 「門の」	두캐	(2-3b-4-5)
dulembi 「過ぎる」	---	---
duleme	두리미 ²⁵	(2-11b-1-7)
	두리머	(2-26a-2-8)
dulimbai 「中央の」	두림배	(2-23a-1-1)
dung 「漢語東」 (dung ling guwan 「東嶺関」)	둥	(2-23b-2-5)
durimbi 「奪う」	---	---
durifi	두리피	(2-17b-1-5)
durime	두리머	(2-17a-3-3)
ebubumbi 「降ろす」	---	---
ebubufi	어부부피	(2-21a-2-4)
ebumbi 「降りる」	---	---
ebu	어부	(2-24a-4-3) ²⁶
ebufi	어부피	(2-16b-2-5) (2-18b-3-5) (2-20a-4-5) (2-24a-5-3)
eburakū	어부라쿠	(2-14a-5-3)
ebure	어부리	(2-3a-3-5)
ecike 「父の弟」	어치커	(2-17b-3-6)
ehecumbi 「誹謗する、陰口を きく」	---	---
ehecume	어히츄머	(2-1a-4-2)
einci 「思うに」 ²⁷	엔치	(2-16a-1-6)
eitereci 「要するに」	에터러치	(2-5a-4-3)
ejen 「君主；主」	어전	(2-1a-6-4) (2-2a-2-5) (2-4a-1-4) (2-5a-2-2) (2-6a-5-4) (2-9a-6-3) (2-11a-6-5) (2-20a-1-3) ²⁸
ekšembi 「急ぐ」	---	---
ekšeme	억셔머	(2-25a-2-4)

²⁵ 原書の当該箇所では、「두리머」ではなく「두리미」と記されている。これは誤記であるか、あるいは墨の欠落によるものと考えられる。

²⁶ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

²⁷ 当該語は『大清全書』および『増訂清文鑑』のいずれにおいても ainci と綴られている。一方、『三譯総解』の当該箇所では、満洲文字表記・ハングル表記のいずれも、einci に対応する形で現れている。なお、岸田 (1997: 163) が指摘しているように、『満文三國志』および『満漢合璧三國志』では、対応箇所における語形はいずれも ainci である。

²⁸ 岸田 (1997: 165) によれば、『三譯総解』[2:20a/1] (第2巻第20葉a面第1行) の ejen に対応する『満漢合璧三國志』[6:37b/7] (第6巻第37葉b面第7行) の語形は、「ᡤᡳᡵᡳᡳ」(ejen) の誤記である。しかし、筆者の確認によれば、当該の誤った語形が『満漢合璧三國志』に現れる箇所は、第6巻第37葉b面第7行ではなく、第6巻第38葉a面第1行である。筆者が参照した『満漢合璧三國志』は、次のウェブサイトを確認できる (最終確認日=2026年1月28日)。

https://digital.staatsbibliothek-berlin.de/werkansicht?PPN=PPN3346157776&PHYSID=PHYS_1817&DMDID=DMDLOG_0001

elhei 「ゆつくりと」	얼헤	(2-7b-4-5) (2-7b-6-4)
emge 「一つ」 ²⁹	엄거	(2-6b-6-3)
emgeri 「一回 ; 既に」	엄거리	(2-3a-1-3) (2-3a-2-2) (2-13a-4-1) (2-15a-2-3)
emhun 「一人で ; 老いて子の いない」	엄훈	(2-9b-6-3) (2-19b-6-2)
emu 「一」	어무	(2-3b-3-3) (2-6b-4-7) (2-7a-4-1) (2-7b-1-5) (2-10a-1-4) ³⁰ (2-10a-4-2) (2-12b-2-2) (2- 12b-3-3) (2-14a-2-1) (2-14b-6-4) (2-14b-6-6) (2-15b-5-5) (2-16a-1-4) (2-19b-6-1) (2-23b- 1-5)
encu 「別の」	연츰	(2-9a-4-2) (2-13b-2-5) (2-21b-2-1)
enculembi 「別にする」	---	---
enculeme	연츰러머	(2-17a-4-1)
erdemu 「才徳」	얼더무	(2-17b-6-4)
ere 「この ; これ ; この人」	어러	(2-9a-3-6) (2-12b-6-1) (2-13a-2-4) (2-14b-4- 4) (2-24b-6-4)
ergi 「方向」	얼기	(2-10b-5-1)
erindari 「毎時 ; 時々」	어린다리	(2-7a-1-3)
esukiyembi 「叱り飛ばす」	---	---
esukiyeme	어수켜머	(2-1b-4-6)
etuku 「服」	어투쿠	(2-6b-6-2) (2-14a-1-2) (2-14a-6-4) (2-14b-1- 5) (2-16a-4-2) (2-19b-3-5)
etumbi 「着る」	---	---
etufi	어투피	(2-23a-6-1)
etuhebi	어투허비	(2-16a-3-2) (2-16a-4-3)
eture	어투러	(2-6b-5-3)
facuhün 「乱れた ; 乱れ」	파츄훈	(2-25b-4-3)
fafun 「法度、法律」	파푼	(2-3b-5-7) (2-25b-3-2)
faidambi 「整列する、並ぶ」	---	---
faidame	패다머	(2-10b-5-3)
fakcambi 「離れる、別れる」	---	---
fakcafi	팍차피	(2-19b-2-1) (2-23a-5-3)
fan 「木製の盤」	판	(2-6b-5-1) (2-12b-3-4)
fe 「古い」	퍼	(2-2a-2-4) (2-4a-1-3) (2-11a-6-4)
fejergi 「下」	퍼절기	(2-4b-6-4)
fejile 「下(に)」	퍼지러	(2-1b-1-3) (2-12a-3-5) (2-22a-3-5) (2-25a-4- 8)
fempilembi 「封をする」	---	---

²⁹ 『三譯総解』の当該箇所では、満洲文字表記・ハングル表記のいずれも emge に対応する形で現れている。しかし、『満漢合璧三國志』における対応箇所の語形は emke である。また、『大清全書』や『増訂清文鑑』などにおいても、当該語は emke と綴られている。

³⁰ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

fempilefi	뽕피리피 ³¹	(2-11b-5-3)
fonde「時に」	폰더	(2-22b-4-6)
fonjimbi「問う」	---	---
fonjici	폰지치	(2-17b-3-3)
fonjime	폰지머	(2-16b-1-1) (2-16b-5-5) (2-20a-3-1)
fonjire	폰지리	(2-17b-5-4)
	폰지리 ³²	(2-22b-2-6)
forombi「向く；振り向く；紡ぐ」	---	---
forofi	포로피	(2-8a-6-2)
fudembi「(客を)見送る」 ³³	푸덤비	(2-6b-6-5)
fudeci	푸더치	(2-19a-6-5)
fudehe	푸더허	(2-19b-4-1)
fudehekū	푸더허쿠	(2-9b-2-5)
fudeki	푸더키	(2-6b-2-5)
fudeme	푸더머	(2-9a-1-5) (2-12b-1-5)
fujin「福晋(王や貝勒の妻、夫人)」	푸진	(2-17b-1-3) (2-17b-3-8) (2-18a-4-5) (2-18b-6-2) (2-20b-5-5) (2-21a-1-5) (2-21a-3-6) (2-22a-5-7) (2-22b-6-4)
fulgiyan「赤い；丙」	풀간	(2-6b-5-4) (2-13b-6-4)
funcembi「余る」	---	---
funceme	푼쳐머	(2-15a-1-3) (2-16a-2-1) (2-16a-5-3) (2-18b-1-7)
funiyeche「髮；毛」	푸녀허	(2-20a-2-2)
furdan「関口；傷口；針で突いた穴；蟠った根」	풀단	(2-23b-1-6) (2-23b-2-2) (2-23b-3-3) (2-24a-3-1) (2-25a-4-6) (2-26a-2-7)
gaimbi「とる」	---	---
gaici	개치	(2-13a-1-8)
gaifi	개피	(2-7a-4-6) (2-9b-5-6) (2-10a-4-6) ³⁴ (2-14a-6-7) (2-15a-4-3) (2-16a-5-6) (2-19a-5-1) (2-19b-2-5)
gaihakū	개하쿠	(2-19b-1-1)
gaime	개머	(2-6b-2-4)

³¹ 原書の当該箇所では、「뽕피리피」ではなく「뽕피리피」と記されている。これは誤記であるか、あるいは墨の欠落によるものと考えられる。

³² 原書の当該箇所では、「폰지리」ではなく「폰지리」と記されている。これは誤記であるか、あるいは墨の欠落によるものと考えられる。

³³ 『大清全書』における見出し語 fudembi の漢訳は「迎送之送。」であり、すなわち（「送り迎える」の）「送る」、「見送る」に相当する意味である。『増訂清文鑑』における見出し語 fudembi 「送」および fudembi 「送客」の説明文は、それぞれ niyalmai jurara de beye benere be fudembi sembi および boigoji tucifi antahasa be tuwame jurambure be fudembi sembi であり、いずれも同様に「(客を) 見送る」という意味を示している。一方、『三譯総解』における fude- の用例には、「(客を) 見送る」の意味の例もあれば、「(物を) 贈る」の意味の例もある。後者の例としては、yūn cang ts'oots'oo i etuku fudehe be aša se de alafi などがある。この例における fudehe の原書の出現箇所は(2-19b-4-1)である。

³⁴ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

gaitai 「突然」	개태	(2-3b-1-1)
gajimbi 「持ってくる」	---	---
gajihabi	가지하비	(2-25a-1-5)
gala 「手」	가라	(2-8b-5-2) (2-21a-3-3)
	가리 ³⁵	(2-10b-6-5)
galai 「手の ; 手で」	가래	(2-14a-2-5)
gamambi 「持っていく」	가맘비	(2-4b-5-3)
gamafi	가마피	(2-6b-6-4)
gamaha	가마하	(2-17b-2-2)
gamame	가마머	(2-8a-4-3) (2-23b-6-1)
gamara	가마라	(2-2a-5-2)
ganambi 「取りに行く」	---	---
gana	가나	(2-18b-1-3)
ganahakū	가나하쿠	(2-25a-3-2)
gashūmbi 「誓う」	---	---
gashūhebi ³⁶	갓후허비	(2-21b-6-1)
gebu 「名」	거부	(2-8a-1-6) ³⁷ (2-15b-1-5) (2-16b-6-2) (2-17a-1-8) (2-17a-2-2) (2-20a-3-6) (2-22b-2-3) (2-22b-3-7) (2-23b-2-4) (2-23b-4-1)
gecuheri 「(漢訳)蟒緞 ; 錦」	거츄허리	(2-6b-6-1) (2-14a-1-1) (2-14a-6-3) (2-16a-4-1)
gemu 「皆」	거무	(2-1b-3-3) (2-2a-6-4) (2-4b-6-6) (2-5b-2-1) (2-10b-6-7) ³⁸ (2-11b-6-4) (2-20a-2-3)
genembi 「行く」	거넘비	(2-7a-4-7) (2-9a-1-2) (2-24b-1-3) (2-24b-3-7)
gene	거너	(2-8a-5-2)
geneci	거너치	(2-1b-2-3) (2-4a-5-6) (2-7b-2-3) (2-19b-6-6)
genefi	거너피	(2-6b-3-4) (2-7a-5-4) (2-9b-1-4) (2-9b-3-5)
genehe	거너허	(2-1a-4-4) (2-14b-3-6) (2-19b-2-8)
genehei	거너헤	(2-19b-5-4)
genehekū	거너허쿠	(2-6b-1-4)
genehengge	거너형거	(2-2a-1-4) ³⁹ (2-3b-2-2) (2-5a-4-2)
geneki	거너키	(2-26a-4-4)

³⁵ 原書の当該箇所では、「가라」ではなく「가리」と記されている。これは誤記であるか、あるいは墨の欠落によるものと考えられる。

³⁶ 母音調和に従えて、gashūhebi ではなく、gashūhabi のはずである。しかし、『三譯総解』原書では、この満洲文字表記・ハングル表記のいずれも、gashūhebi に対応する形で現れている。なお、岸田 (1997: 166) によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』では、対応箇所における語形はいずれも gashūhabi である。

³⁷ 岸田 (1997: 162) は、『三譯総解』の当該箇所における満洲文字は bebu であると述べている。しかし、『三譯総解』原書の当該箇所では、満洲文字・ハングル表記のいずれも gebu に対応する形で現れている。

³⁸ 原書の当該箇所では印刷が不鮮明なため、「거무」が「기무」のように見えるが、本来は「거무」と書かれていたものと考えられる。

³⁹ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

genembime	거넘비머	(2-13a-1-3) ⁴⁰
geneme	거너머	(2-3b-4-4) (2-15b-3-2)
generakūci	거너라쿠치	(2-11b-2-1)
genere	거너러	(2-7b-5-1) (2-23b-6-5) (2-25a-1-1)
genggiyen 「清い；聡明な」	경견	(2-1b-2-2) (2-1b-2-4)
gerembi 「空が明るくなる」	---	---
gereke	거리커	(2-23a-2-4)
geren 「多くの；すべての；衆人」	거런	(2-2a-5-4) (2-2b-3-5) (2-10b-4-1) (2-10b-6-3) (2-15a-4-1) (2-15a-5-4)
gese 「～のような」	거서	(2-10a-5-1)
gida 「槍」	기다	(2-16a-4-4) (2-16b-2-1)
gidašambi 「差し招く；輕蔑する、いじめる」	기다삼비	(2-25b-2-3)
girucun 「恥、屈辱」	기루춘	(2-19a-1-4) ⁴¹
gisun 「言葉」	기순	(2-3b-3-6) (2-4a-3-2) (2-9a-5-5) (2-12a-2-2) (2-12a-4-3) (2-15a-2-4) (2-18a-2-2) (2-19a-2-4)
gisurembi 「話す」	---	---
gisurehe	기수리허	(2-25b-6-6)
goidambi 「久くなる」	---	---
goidahakū	괴다하쿠	(2-18b-1-5)
golombi 「驚く」	---	---
golofi	고로피	(2-15b-4-1)
goloho	고로호	(2-18b-5-1)
goro 「遠い」	고로	(2-6b-1-3) (2-9a-1-1)
gosimbi 「慈しむ、愛する；疼く」	---	---
gosiha	고시하	(2-13a-6-1)
gosime	고시미 ⁴²	(2-12b-4-5)
gosire	고시러	(2-3a-6-1)
gucu 「友達」	구쥬	(2-17a-5-4) (2-22a-6-1) (2-22b-1-7)
guculembi 「交友する」	---	---
guculerakū	구쥬러라쿠	(2-13b-6-1)
gucuse 「友達(複数形)」	구쥬서	(2-19a-4-5) (2-19b-2-3)
gung 「漢語功」	궁	(2-3a-4-4) (2-13a-3-6)
gung 「漢語公」 (guwan gung 「関公」)	궁	(2-1a-3-3) (2-8a-1-2) (2-8b-1-4) (2-9a-3-2) (2-9b-5-1) (2-10b-2-1) (2-10b-6-2) (2-11a-3-

⁴⁰ 原書の当該箇所では印刷が不鮮明なため、「거넘비머」が「거넘비미」のように見えるが、本来は「거넘비머」と書かれていたものと考えられる。

⁴¹ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

⁴² 原書の当該箇所では、「고시머」ではなく「고시미」と記されている。これは誤記であるか、あるいは墨の欠落によるものと考えられる。

		3) (2-12b-4-2) (2-13a-5-2) (2-15b-2-4) (2-16a-1-2) (2-16a-6-5) (2-18a-4-2) (2-18b-1-1) (2-18b-3-2) (2-19a-2-2) (2-19a-5-3) (2-19a-6-7) (2-20a-4-2) (2-20b-2-2) (2-20b-2-6) (2-20b-4-6) (2-21a-3-2) (2-21a-5-1) (2-21a-5-7) (2-21b-1-5) (2-21b-3-2) (2-22b-1-5) (2-22b-2-2) (2-23a-1-5) (2-23a-4-2) (2-23b-5-4) (2-24a-3-5) (2-24a-4-7) (2-24b-2-1) (2-25a-2-2)
gurun 「国」	구룬	(2-3b-5-5) (2-25b-4-2)
guwan 「漢語関」 (dung ling guwan 「東嶺関」) (guwan gung 「関公」) (guwan mu 「関某」)	관	(2-23b-3-2) (2-1a-3-2) (2-8a-1-1) (2-8b-1-3) (2-9a-3-1) (2-9b-4-4) (2-10b-1-4) (2-10b-6-1) (2-11a-3-2) (2-12b-4-1) (2-13a-5-1) (2-15b-2-3) (2-16a-1-1) (2-16a-6-4) (2-18a-4-1) (2-18a-6-5) (2-18b-3-1) (2-19a-2-1) (2-19a-5-2) (2-19a-6-6) (2-20a-4-1) (2-20b-2-1) (2-20b-2-5) (2-20b-4-5) (2-21a-3-1) (2-21a-4-5) (2-21a-5-6) (2-21b-1-4) (2-21b-3-1) (2-22b-1-4) (2-22b-2-1) (2-23a-1-4) (2-23a-4-1) (2-23b-5-3) (2-24a-3-4) (2-24a-4-6) (2-24b-1-4) (2-25a-2-1) (2-1b-6-2) (2-2b-2-4) (2-2b-4-1) (2-4a-5-1) (2-11a-5-1) (2-11b-1-4) (2-13a-1-1) (2-18b-5-3) (2-20a-6-5)
gūnimbi 「思う」	---	---
gūnici	구니치	(2-13a-6-3)
gūnikini	구니키니	(2-7a-1-4)
gūnime	구니머	(2-8a-1-3)
gūnin 「心；意；考え」	구닌	(2-5b-3-7) (2-9a-4-3)
gūsin 「三十」	구신	(2-15b-3-3)
gūwaliyambi 「変わる」	---	---
gūwaliyandara	귀란다라	(2-6a-4-4)
gūwaliyandarahu	귀란다라후	(2-14a-4-4)
g'an 「漢語甘」 (g'an mi 「甘糜」)	간	(2-21a-1-2)
habšambi 「告訴する」	---	---
habšaha	합상하	(2-11a-6-1) ⁴³
habšanambi 「告訴しに行く」	---	---

⁴³ 『増訂清文鑑』における見出し語 *habšambi* 「告状」の説明文は「告訴する、訴訟する」の意味である。原書における説明文 *sui mangga babe tucibume siden i yamun de bithe alibure be habšambi sembi* を参照されたい。一方、『三譯総解』における *habša-* の用例、すなわち、(2-11a-6-1)における *habšaha* は、「告状」(告訴する、訴訟する)という意味ではなく、「稟」(上申する、申し上げる)という意味で用いられている。『三譯総解』に見られる *habšaha bihe* の朝鮮語訳は「품하엿더니」である。この「품」は漢字語「稟」である。두산동아 사서편집국 (1994: 2059)によれば、「품하다」は「上申する；申し上げる」の意味である。

habšanafi	합샤나피	(2-25a-6-3)
hacihiyambi「急かす;強いる」	---	---
hacihiyame	하치하머	(2-8a-5-1)
hadala「轡」	하다라	(2-7b-4-3)
hafan「官吏」	하판	(2-3b-5-1) (2-22b-5-3) (2-22b-5-5)
hafirabumbi「追い詰められる」	---	---
hafirabufi	하피라부피	(2-2b-5-2)
haha「男」	하하	(2-1b-3-1) (2-5b-5-6)
hala「姓」	하라	(2-16b-6-3) (2-17a-1-6) (2-20a-3-4) (2-21b-2-2) (2-22b-2-4) (2-22b-3-5) (2-23b-3-7)
halambi「代える、交替する;火傷する」	---	---
halarakū	하라라쿠	(2-5b-4-1)
han「君主、皇帝」	한	(2-17b-3-4) (2-22b-4-4)
harangga「管下の」	하랑가	(2-1a-2-3) (2-23b-5-1)
hecen「城」	허전	(2-2b-4-6)
hehesi「女たち」	허허시	(2-20b-6-6) (2-22a-5-2)
hendumbi「言う」	---	---
hendufi	헌두피	(2-12b-2-1) (2-14b-2-3) (2-15a-3-4) (2-22a-4-4)
hendume	헌두머	(2-1a-6-2) (2-1b-6-1) (2-2a-2-3) (2-2a-4-3) (2-2b-1-2) (2-2b-2-3) (2-4b-3-2) (2-5a-3-4) (2-5a-5-2) (2-6a-1-5) (2-6a-3-2) (2-7a-2-3) (2-7a-3-3) (2-8b-2-6) (2-8b-4-2) (2-9a-3-3) (2-9a-5-2) (2-9b-5-2) (2-11a-2-2) (2-11a-4-8) (2-12a-3-2) (2-12b-4-3) (2-13a-2-3) (2-13a-5-3) (2-13b-4-1) (2-14b-4-3) (2-14b-6-2) (2-15a-5-2) (2-18a-4-3) (2-18a-5-3) (2-18b-4-3) (2-18b-6-3) (2-20b-1-2) (2-20b-3-1) (2-20b-5-1) (2-21a-6-1) (2-21b-1-3) (2-21b-3-3) (2-22a-3-2) (2-24a-6-5) (2-24b-2-2) (2-24b-4-3) (2-25a-2-3) (2-25a-4-1) (2-25b-1-5) (2-25b-3-1) (2-26a-2-3) (2-26a-4-1)
heo「漢語侯」 (šeo ding heo「寿亭侯」)	호	(2-3a-5-4)
hergimbi「ぶらつく;糸を巻きつける」	---	---
hergime	헐기머	(2-17a-6-4)
hese「敕旨;言葉」	허스	(2-2a-1-2)
hetu「横;廂房(“正房”の両脇にある建物);体の横幅が広い」	허투	(2-10b-2-5)

hiowande 「漢語玄德」 (lio hiowande 「劉玄德」)	환더	(2-24b-3-4) (2-20a-6-2) (2-21b-4-1)
hiya 「漢語下」 (hiya pi 「下邳」)	하	(2-2b-4-4)
hiyang 「漢語襄」 (hiyang yang 「襄陽」)	향	(2-17a-1-1)
hono 「なお ; 少しも」	호노	(2-12b-5-1)
hū 「漢語胡」 (hū hūwa 「胡華」)	후	(2-22b-3-6) (2-23a-3-1) (2-23a-4-9)
hūdun 「速い」	후둔	(2-11a-2-7) (2-18b-1-2)
hūlambi 「読む ; 呼ぶ ; 雄鶏が 鳴く」	후람비	(2-15b-6-6)
hūlafi	후라피	(2-8a-3-4)
hūlame	후라머	(2-7b-5-6) (2-20b-6-8)
hūlara	후라라	(2-8a-1-8)
hūturi 「福」	후투리	(2-13b-5-2)
hūwa 「漢語華」 (hū hūwa 「胡華」)	휘	(2-22b-4-1) (2-23a-3-2) (2-23a-5-1)
hūwa 「漢語化」 (liyoo hūwa 「廖化」)	휘	(2-17a-1-9) (2-18a-5-2) (2-19a-3-4) (2-19a-4-3) (2-19a-6-2) (2-19b-1-3)
hūwan 「漢語桓」 (hūwan di 「桓帝」)	환	(2-22b-4-2)
hūwang 「漢語晃」 (sioi hūwang 「徐晃」)	황	(2-10a-6-2)
i 「の ; で」	이	(2-1a-2-2) (2-2b-6-3) (2-3a-6-3) (2-3b-5-6) (2-4a-3-3) (2-5a-2-3) (2-6a-5-5) (2-9a-6-4) (2-10a-2-6) (2-10a-6-8) (2-10b-3-3) (2-10b-6-4) (2-11a-3-5) (2-12b-3-1) (2-12b-6-5) (2-13a-3-4) (2-14a-6-1) (2-15b-5-3) (2-17b-1-7) (2-17b-3-5) (2-17b-3-7) (2-17b-6-2) (2-19b-3-4) (2-20a-1-2) (2-20a-6-3) (2-21a-3-7) (2-21b-4-4) (2-22a-1-5) (2-22a-5-8) (2-22b-1-1) (2-22b-4-5) (2-23b-2-3) (2-23b-4-4) (2-24a-1-2) (2-24a-1-4) (2-24a-1-6) (2-24a-5-6) (2-24b-6-3) (2-25a-4-7) (2-26a-2-6)
i 「漢語議」 (i lang 「議郎」)	이	(2-22b-5-1)
ici 「右 ; 方向」	이치	(2-15b-4-3)
ide 「漢語翼德」 (jang ide 「張翼德」)	이더	(2-21b-4-3)
ilan 「三」	이란	(2-2b-3-1) (2-3a-1-1) (2-4a-4-4)
ilibumbi 「立たせる ; 立てる ; 止める」	---	---

ilibu	이리부	(2-6b-3-5) (2-7a-6-1) (2-9b-4-1)
ilibuha	이리부하	(2-10b-5-4) ⁴⁴
ilimbi 「立つ；起きる；止まる；休む」	---	---
ili	이리	(2-10b-4-5) (2-15b-6-4)
ilifi	이리피	(2-10a-3-4)
iliha	이리하	(2-10b-3-6) (2-21a-4-2)
ilirakū	이리라쿠	(2-7a-3-1)
imbe 「彼を；彼女を」	임버	(2-2b-6-1)
inenggi 「日」	이녕기	(2-3a-1-2) (2-3a-2-1) (2-7b-1-6) (2-13b-2-2)
ini 「彼の；彼女の」	이니	(2-5a-2-1) (2-19a-4-4) (2-19b-2-2) (2-20b-6-3)
injembu 「笑う」	---	---
injefi	인저피	(2-13b-3-4)
inu 「そうだ；是；も」	이누	(2-20b-3-2)
ioi 「漢語于」 (ioi jin 「于禁」)	위	(2-10a-6-3)
ioi 「漢語昱」 (ceng ioi 「程昱」)	위	(2-1b-5-4) (2-2a-4-2) (2-2b-2-2) (2-5a-3-3) (2-6a-1-4) (2-7a-2-2)
isabumbi 「集める；髪を結わせる」	---	---
isabuhabi	이사부하비	(2-17a-5-1)
isibumbi 「至らせる、及ばせる；届ける；贈る、与える」	---	---
isibure	이시부러	(2-13b-3-2)
isinambi 「着く、至る」	---	---
isinaha	이시나하	(2-3a-6-6) (2-23b-2-1)
jabcambi 「咎める」	---	---
jabcara	잡차라	(2-6a-2-6)
jabumbi 「答える」	---	---
jabume	자부머	(2-16b-6-6)
jaci 「甚だ」	자치	(2-14b-4-6)
jafabumbi 「取らせる；掴ませる；逮捕させる」	---	---
jafabufi	자파부피	(2-14a-3-1) ⁴⁵
jafambi 「取る；掴む；捕らえる、逮捕する；氷が張り詰める；交わりを結ぶ」	---	---

⁴⁴ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

⁴⁵ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

jafafi	자파피	(2-8a-4-7) (2-8b-2-5) (2-16a-4-5) (2-23a-6-3) (2-24a-2-5) ⁴⁶
jafaha	자파하	(2-23b-3-5)
jafaki	자파키	(2-14b-5-3) ⁴⁷
jafame	자파머	(2-8b-3-4)
jaka 「物；隙間；所；～たばかり」	자카	(2-11b-6-2) (2-12a-6-3) (2-12b-1-4) (2-13a-3-2) (2-23a-3-4)
jakade 「～の所に/で；～ので」	자카더	(2-1a-5-5) (2-17b-5-5) (2-22a-5-9) (2-22b-2-7) (2-24a-4-5)
jalan 「世；世代；節；兵の一隊；甲喇(軍団の単位)」	자란	(2-15b-1-2)
jalín 「為」	자린	(2-5a-2-4) (2-6a-5-6) (2-9a-6-5)
jang 「漢語張」 (jang ide 「張翼德」)	장	(2-21b-4-2)
jangkū 「大刀」	장쿠	(2-8b-2-3) (2-10b-2-3) (2-14a-5-5) (2-23a-6-2) (2-26a-6-4)
jangliyoo 「漢語張遼」	장료	(2-6b-3-1) (2-7a-5-1) (2-8a-6-4) (2-8b-4-1) (2-9a-5-1)
jembi 「食べる」	---	---
jeŋi	저피	(2-23a-3-6)
jetere	저터러	(2-23a-3-3)
jergi 「階級；回」	절기	(2-5a-6-2) (2-10a-6-9)
jili 「怒り」	지리	(2-2b-3-6) (2-25b-1-3) (2-26a-6-2)
jimbi 「来る」	짐비	(2-8b-1-2) (2-9a-1-6) (2-10a-5-2) (2-16a-6-3) (2-18b-2-5)
jici	지치	(2-1b-2-1)
jiderengge	지더령거	(2-9a-3-7)
jifi	지피	(2-19a-3-2)
jihe	지허	(2-5a-6-3) (2-9b-5-7) (2-12a-1-2) (2-17b-5-1) (2-20a-3-2)
jihei	지혜	(2-23b-1-4)
jihekū	지허쿠	(2-8b-3-5)
jin 「漢語禁」 (ioi jin 「于禁」)	진	(2-10a-6-4)
jing 「常々、只管(漢語淨)」	징	(2-11b-3-4) (2-12b-4-4)
jing 「正に、丁度(漢語正)」	징	(2-24b-5-4)
jirgambi 「安樂に暮らす」	---	---
jirgara	질가라	(2-3a-6-2)
jiyan 「漢語儉」	잔	

⁴⁶ 原書の当該箇所では印刷が不鮮明なため、「자파피」が「자피피」のように見えるが、本来は「자파피」と書かれていたものと考えられる。

⁴⁷ 原書の当該箇所では印刷が不鮮明なため、「자파키」が「자파키」のように見えるが、本来は「자파키」と書かれていたものと考えられる。

(yuwan jiyān 「元俟」)		(2-17a-2-4)
jiyangjiyūn 「漢語將軍」 ⁴⁸	장원	(2-1a-2-4) (2-2a-6-1) (2-2b-6-4) (2-10b-4-2) (2-12a-5-1) (2-12b-2-3) (2-13a-3-3) (2-14a-2-2) (2-15a-6-1) (2-17b-6-1) (2-18b-6-5) (2-20a-3-3) (2-22a-3-3) (2-23b-3-6) (2-23b-5-2) (2-24b-1-1) (2-24b-6-2) (2-25a-4-5)
jobolon 「憂い；災難；喪」	조보론	(2-4b-1-3) (2-6a-2-2)
jolambi 「両手を交えて袖の中に入れる」	---	---
jolafi ⁴⁹	조라피	(2-21a-3-4)
jugūn 「道」	주군	(2-6b-4-2) (2-8a-4-5) (2-12a-5-4) (2-12b-1-1) (2-15a-4-7)
julesi 「南に；前に」	주러시	(2-18b-3-6) (2-20a-5-1)
julge 「昔」	줄거	(2-2b-4-3)
jurambi 「出発する」	---	---
jurame	주라머	(2-25a-2-5)
jurcembī 「違背する」	---	---
jurcere	줄쳐러	(2-6a-4-3)
jurgan 「行；筋；義；部院(中央官庁)」	줄간	(2-2a-3-3) (2-5b-4-2) (2-6a-4-1) (2-9b-1-5)
jurgangga 「節義ある」	줄강가	(2-1b-1-4) (2-13b-4-5) (2-22a-3-6)
juwan 「十」	쥘	(2-7a-4-3) (2-10a-1-6)
juwe 「二」	쥬위 ⁵⁰	(2-4a-1-2)
	쥬위	(2-5a-6-1) (2-10b-4-7) (2-14a-2-4) (2-17b-1-2) (2-18a-4-4) (2-18b-6-1) (2-20b-5-4) (2-21a-1-4) (2-21a-3-5) (2-21a-6-2) (2-21b-6-2) (2-22a-5-6) (2-22b-6-3) (2-23a-4-3)
kai 「指定や断定の終助詞」	캐	(2-3a-6-7) (2-4b-1-1) (2-5a-2-6) (2-5a-4-6) (2-5b-5-7) (2-15b-2-1) (2-21b-2-3) (2-22a-4-2) (2-24b-6-1)
karulambi 「報いる」	---	---
karulaha	카루라하	(2-13b-1-4)
karularengge ⁵¹	카루라렁거	(2-13a-4-2)

⁴⁸ 当該語は『増訂清文鑑』では jiyanggiyūn と綴られている。『大清全書』には jiyanggiyūn と jiyangjiyūn の両綴りが収録されている。なお、『大清全書』には ilhi jiyangciyūn 「副將軍」という語も収録されており、jiyangciyūn の語形が見られるが、誤記である可能性がある。

⁴⁹ 当該動詞の語幹は『増訂清文鑑』では joola- の形で現れている（見出し語 gala joolambi 「抄手」を参照）。一方、『大清全書』では joola- と jola- の両綴りが収録されている（それぞれ見出し語 fir seme etufi gala joolafi 「(漢訳無し)」と見出し語 jolafi 「叉手（後略）」を参照）。『三譯総解』の当該箇所では、この動詞の語幹は満洲文字表記・ハングル表記のいずれにおいても jola- に対応する形で現れている。なお、岸田（1997: 165）によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』では、対応箇所における語形はそれぞれ jolafi と joolafi である。

⁵⁰ 原書の当該箇所では、「쥬위」ではなく「쥬위」と記されている。これは誤記であるか、あるいは墨の欠落によるものと考えられる。

⁵¹ 母音調和に従えば、karularengge ではなく、karularangge のはずである。しかし、『三譯総解』原書では、ここの満洲文字表記・ハングル表記のいずれも、karularengge に対応する形で現れている。なお、岸田

kemuni 「しょっちゅう ; まだ」	커무니	(2-1a-4-1) ⁵²
kenehunjembi 「疑う」	커너훈점비	(2-8b-6-1)
kesi 「恩」	커시	(2-13a-1-6)
kiyoo 「漢語橋」	코	(2-10a-2-5) (2-10b-3-2) (2-14b-3-3)
koro 「傷 ; 恨み」	코로	(2-4a-6-6)
kundulembi 「敬う」	쿤두럼비	(2-21b-2-6)
kung 「漢語孔」 (kung sio 「孔秀」)	쿵	(2-23b-3-8) (2-24a-1-8) (2-24a-2-2) (2-24a-5-4) (2-24a-6-3) (2-24b-4-1) (2-25a-3-3) (2-25b-2-4) ⁵³ (2-26a-3-2) (2-26a-6-6)
lakiyambi 「吊るす」	---	---
lakiyafi	라카피	(2-11b-5-6) ⁵⁴
lang 「漢語郎」 (i lang 「議郎」)	랑	(2-22b-5-2)
lashalambi 「断つ ; 決断する」	---	---
lashalame	랏하라머	(2-4b-1-5)
li 「漢語李」 (li diyan 「李典」)	리	(2-10a-6-5)
ling 「漢語陵」 (ba ling 「霸陵(橋名)」)	링	(2-10a-2-4)
ling 「漢語嶺」 (dung ling guwan 「東嶺関」)	링	(2-23b-3-1)
lio 「漢語劉」 (lio hiowande 「劉玄德」)	린	(2-20a-6-1) (2-21b-3-5)
liyang 「漢語良」 (yan liyang 「顔良」)	량	(2-20b-1-4)
liyoo 「漢語廖」 (liyoo hūwa 「廖化」) (liyoo jiyangjiyūn 「廖將軍」)	료	(2-17a-1-7) (2-18a-5-1) (2-19a-3-3) (2-19a-4-2) (2-19a-6-1) (2-19b-1-2) (2-18b-6-4)
lo 「漢語洛」 (lo yang 「洛陽」)	로	(2-23a-6-5)
loho 「腰刀」	로호	(2-16b-5-2) (2-24a-2-4)
mahala 「帽子」	마하라	(2-16a-3-1)
majige 「少し」	마지거	(2-13a-3-1) (2-13b-1-1) (2-14a-1-4)

(1997:163)によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』では、対応箇所における語形はいずれも *karularange* である。

⁵² 原書の当該箇所では印刷が不鮮明なため、「커무니」が「거무니」のように見えるが、本来は「커무니」と書かれていたものと考えられる。

⁵³ 原書の当該箇所では印刷が不鮮明なため、「쿵 쇠」が「궁 쇠」のように見えるが、本来は「쿵 쇠」と書かれていたものと考えられる。

⁵⁴ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

manggi 「～た後」	망기	(2-1b-5-2) (2-14a-3-3) (2-19b-5-7) (2-20b-4-4) (2-21a-2-7) (2-23a-2-5) ⁵⁵
maribumbi 「戻す」	---	---
maribuŋi	마리부피	(2-14b-3-2)
mehumbi 「身を俯せる、体を屈める」	---	---
mehume	머후머	(2-11a-4-5)
menggun 「銀」	명군	(2-3a-3-7) (2-5b-1-4) (2-6b-4-6) (2-11b-5-1) (2-19a-6-3)
meni 「私たち(除外的)の」	머니	(2-2b-3-4)
meni (meni meni 「各々の」)	머니	(2-6a-5-2) (2-6a-5-3) (2-9a-6-1) (2-9a-6-2)
mi 「漢語糜」 (g'an mi 「甘糜」)	미	(2-21a-1-3)
mimbe 「私を」	뎨뎨	(2-5a-1-1) (2-7a-1-2) (2-8a-2-4) (2-8b-3-3) ⁵⁶ (2-9b-3-3)
minde 「私に」	민더	(2-5b-2-2)
mingga 「千」 ⁵⁷	밍가	(2-5b-3-2) (2-7b-1-7)
mini 「私の」	미니	(2-5b-1-1) (2-8a-1-4) (2-8b-4-3) (2-13b-5-1) (2-17a-5-3) (2-22b-3-4)
morilambi 「乗馬する」	---	---
morilafi	모리라피	(2-23a-6-4)
morilahai	모리라해	(2-10a-3-3) (2-10b-3-1)
morin 「馬」	모린	(2-3a-2-5) (2-3a-3-3) (2-7b-1-4) (2-7b-3-6) (2-8a-6-5) (2-8b-1-6) (2-11a-3-4) (2-12b-2-4) (2-14a-5-1) (2-14b-3-1) (2-14b-6-7) (2-16a-4-6) (2-16b-2-3) (2-16b-4-4) (2-18b-3-3) (2-20a-4-3) (2-24a-4-1) (2-24a-5-1)
moringga 「乗馬した(人)」	모링가	(2-7a-4-4) (2-10a-4-4) ⁵⁸
mu 「漢語某」 (guwan mu 「関某」)	무	(2-1b-6-3) (2-2b-2-5) (2-2b-4-2) (2-4a-5-2) (2-11a-5-2) (2-11b-1-5) (2-13a-1-2) (2-18b-5-4) (2-20a-6-6)
muduri 「龍；辰」	무두리	(2-25b-5-1)
mujilen 「心」	무지런	(2-9a-2-2) (2-11a-1-3) (2-14a-1-5)

⁵⁵ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

⁵⁶ 原書の当該箇所では印刷が不鮮明なため、「뎨뎨」が「뎨뎨」のように見えるが、本来は「뎨뎨」と書かれていたものと考えられる。

⁵⁷ 当該語は『増訂清文鑑』では *minggan* と綴られている。一方、『大清全書』では *mingga* と綴られている。『三譯総解』の当該箇所では、満洲文字表記・ハングル表記のいずれも、*mingga* に対応する形で現れている。なお、『三譯総解』第2巻第1葉a面第1行の *yūn cang minggan babe emhun yabuha* 「關雲長千里獨行」には、*minggan* の形式が見られる（この点については、岸田 1997: 161 も言及している）。ただし、この部分には対応するハングル表記が存在しないため、表1には掲げていない。なお、岸田 (1997: 161, 162) によれば、『満文三國志』および『満漢合璧三國志』では、対応箇所における語形はいずれも *minggan* である。

⁵⁸ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

muse 「私たち(包括的)」	무서	(2-15a-1-1)
na 「地」	나	(2-16b-2-6) (2-17b-4-3)
nakambi 「やめる」	---	---
naka	나카	(2-7b-6-3)
nakafi	나카피	(2-22b-5-6)
nasambi 「嘆息する」	---	---
nasame	나사머	(2-15a-5-1)
necimbi 「犯す」	---	---
necirakū	너치라쿠	(2-8a-2-5) ⁵⁹
necire	너치리 ⁶⁰	(2-9a-2-1)
nekeliyen 「薄い」	너커런	(2-13b-5-3) ⁶¹
nenembi 「先行する」	---	---
nenehe 「先の」	너너히	(2-12a-2-1) (2-12a-4-2)
neneme 「先に」	너너머	(2-4b-4-2) (2-6b-3-3) (2-7a-5-3) (2-9b-3-4) (2-11a-5-4)
nerembi 「羽織る」	---	---
nerefi	너러피	(2-14b-1-3)
ni 「の ; で」	니	(2-2a-4-5) (2-3b-3-5) (2-4a-2-2) (2-5a-3-7) (2-7b-1-1) (2-9a-3-5) (2-9a-5-4) (2-10b-2-2) (2-11b-3-1) (2-13a-5-5) (2-17a-1-3) (2-23b-1-2) (2-24b-5-7)
ningge 「～であるもの」	닝거	(2-1b-2-5)
ninggu 「上」	닝구	(2-24a-1-3)
ningguci 「上より」	닝구치	(2-15b-5-4)
ninggude 「上に/で」	닝구더	(2-17b-2-1)
ninggun 「上」 ⁶²	닝군	(2-10a-3-1) (2-10b-3-4) (2-11a-4-1)
niyakūrambi 「ひざまずく」	---	---
niyakūrafi	냐쿠라피	(2-17b-4-5)
niyakūraha	냐쿠라하	(2-16b-2-8)
niyalma 「人」	날마	(2-1b-1-5) (2-4a-6-4) (2-4b-6-5) (2-5b-6-2) (2-6a-4-5) (2-6a-6-1) (2-7b-5-5) (2-8a-2-1) (2-8a-3-2) (2-12b-6-6) (2-13b-4-6) (2-14b-4-5) (2-14b-6-5) (2-15a-1-4) ⁶³ (2-15b-5-6) ⁶⁴ (2-16a-1-5) (2-16b-1-4) (2-16b-1-6) (2-17a-

⁵⁹ 原書の当該箇所では印刷が不鮮明なため、「너치라쿠」が「너치리쿠」のように見えるが、本来は「너치라쿠」と書かれていたものと考えられる。

⁶⁰ 原書の当該箇所では、「너치리」ではなく「너치리」と記されている。これは誤記であるか、あるいは墨の欠落によるものと考えられる。

⁶¹ 原書の当該箇所では印刷が不鮮明なため、「너커런」が「너커린」のように見えるが、本来は「너커런」と書かれていたものと考えられる。

⁶² 『大清全書』および『増訂清文鑑』では、ninggu が「上」を、ninggun が「六」を意味する。『三譯総解(第二)』では、「上」を表す際に ninggun と ninggu のいずれの綴りもある。

⁶³ 原書の当該箇所では印刷が不鮮明なため、「날마」が「날미」のように見えるが、本来は「날마」と書かれていたものと考えられる。

⁶⁴ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

		1-5) (2-17a-4-4) (2-18b-2-1) (2-20b-1-1) (2-20b-3-4) (2-20b-6-2) (2-21a-4-4) (2-21b-1-2) (2-22a-3-1) (2-22a-4-1) (2-22a-6-4) (2-22b-3-2) (2-24a-1-7) (2-25a-5-3)
niyambi 「朽ちる、腐る」	---	---
niyarakū	나라쿠	(2-15b-1-6)
noho 「尽く」	노호	(2-6b-5-6) (2-13b-6-3) (2-16a-3-6)
nungnebumbi 「侵害させる ; 侵害される」	---	---
nungneburahū	눔너부라후	(2-18a-5-4)
obumbi 「する」	---	---
obufi	오부피	(2-2b-6-5) (2-10b-2-6)
obuhengge ⁶⁵	오부헝거	(2-5b-5-4)
obume	오부머	(2-3a-5-5)
okdombi 「迎える」	---	---
okdofi	옥도피	(2-18b-4-2)
okdome	옥도머	(2-20a-1-4)
okson 「歩み、一歩」	옥손	(2-10a-2-1)
olhombi 「乾く ; 恐れる」	---	---
olhorakū	올호라쿠	(2-15a-1-6)
ombi 「なる」	---	---
oci	오치	(2-25a-4-4)
ofi	오피	(2-9b-2-6) (2-11b-3-8) (2-13b-5-4) (2-15b-3-7) (2-17b-3-9) (2-18a-2-4) (2-25a-2-6) (2-25b-4-4)
oho	오호	(2-11a-1-5)
ohobi	오호비	(2-16a-2-2) ⁶⁶
ohode	오호더	(2-6a-2-3) (2-25b-6-3)
ojorakū	오조라쿠	(2-11b-2-2) (2-13a-2-1) (2-15a-3-2)
okini	오키니	(2-14a-1-7)
ombihe	옴비허	(2-19a-1-5)
ombio	옴븀	(2-6a-6-5) (2-13b-1-6) ⁶⁷ (2-25b-3-6)
otolo	오토로	(2-15b-3-5) ⁶⁸
ondombi 「乱暴なことをする」	---	---

⁶⁵ 母音調和に従えば、obuhengge ではなく、obuhange のはずである。しかし、『三譯総解』の当該箇所では、ここの満洲文字表記・ハングル表記のいずれも、obuhengge に対応する形で現れている。なお、岸田 (1997: 161) によれば、『満文三國志』および『満漢合璧三國志』では、対応箇所における語形はいずれも obuhange である。

⁶⁶ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

⁶⁷ 原書の当該箇所では印刷が不鮮明なため、「옴븀」が「음븀」のように見えるが、本来は「옴븀」と書かれていたものと考えられる。

⁶⁸ 原書の当該箇所では印刷が不鮮明なため、「오토로」が「오도로」のように見えるが、本来は「오토로」と書かれていたものと考えられる。

ondohongge	온도홍거	(2-4a-4-1)
onggombi 「忘れる」	---	---
onggofi	웅고피	(2-4a-2-6)
onggorakūngge	웅고라쿵거	(2-1a-6-6) ⁶⁹
orin 「二十」	오린	(2-15a-1-2) (2-16a-1-7)
pi 「漢語邳」 (hiya pi 「下邳」)	피	(2-2b-4-5)
sa 「～たち」	사	(2-10b-4-3) (2-15a-6-2)
sabumbi 「見る」	---	---
saburakū	사부라쿠	(2-15b-3-6)
sacimbi 「斬る ; 鋤く」	---	---
saciki	사치키	(2-26b-1-1)
sai 「～たちの」	새	(2-1a-2-5) (2-2a-6-2)
sain 「良い」	샌	(2-4a-2-4)
saišambi 「賞賛する」	새삼비	(2-6a-1-2)
sakda 「老いた」	삭다	(2-20a-6-7) (2-20b-3-3) (2-20b-6-1) (2-21a-4-3) (2-21b-1-1) (2-22a-2-2) (2-22a-6-3) (2-22b-3-1) (2-26a-4-6)
salu 「ひげ」	사루	(2-20a-2-1)
sambi 「知る」	---	---
safi	사피	(2-4a-1-8) (2-10b-3-8) (2-11a-1-2) ⁷⁰
sargan 「妻」 (sargan jui 「女の子」)	살간	(2-20b-6-4) (2-22a-5-1)
sarin 「酒宴」	사린	(2-3a-1-5) (2-3a-2-4)
sasa 「一緒に」	사사	(2-21b-5-3)
se 「歳」	서	(2-16a-1-8)
se 「～たち」	스	(2-10a-6-7) (2-19b-4-4)
sei 「～たちの」	식	(2-18b-4-5)
sejen 「車」	서전	(2-7b-3-3) (2-8a-4-1) (2-15b-2-5) ⁷¹ (2-18b-2-2) (2-18b-3-7) (2-19b-5-1) (2-20b-5-2) (2-21a-2-2) (2-23a-4-6) (2-23b-5-5)
sembi 「言う」	슴비	(2-5a-1-4) (2-9b-2-3)
seci	스치	(2-13b-1-5) (2-18a-1-6) (2-26a-4-5)
sefi	스피	(2-1b-4-1) (2-7a-4-8) (2-10a-1-2) (2-18b-1-4)
sehe	스허	(2-4b-6-1) (2-5b-3-5) (2-20b-4-3)
sehengge	스형거	(2-3b-5-4)
sembime	슴비머	(2-12a-4-1)

⁶⁹ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

⁷⁰ 満洲語文語では、通常 sabu- は「見る」を、sa- は「知る」を意味する。しかし、原書の(2-10b-3-8), (2-11a-1-2)に見られる safi は、文脈から判断すると「知って」ではなく、むしろ「見て」と解釈すべき用例であると考えられる。

⁷¹ 原書の当該箇所では印刷が不鮮明なため、「서전」が「서전」のように見えるが、本来は「서전」と書かれていたものと考えられる。

seme	스머	(2-1a-5-1) (2-3a-4-6) (2-5b-3-6) (2-7a-2-7) (2-7a-6-2) (2-8a-2-3) (2-8a-5-3) (2-9a-1-3) (2-9b-4-2) (2-9b-6-1) (2-10b-4-6) (2-12a-6-6) (2-12b-1-7) (2-14a-1-8) (2-14a-4-5) (2-14b-2-2) (2-15a-3-3) (2-16b-4-3) (2-18a-6-1) (2-19b-6-5) (2-21b-5-4) (2-22a-1-7) (2-22a-4-3) (2-26a-1-1)
	스미 ⁷²	(2-15b-6-5)
semeo	스모	(2-8b-3-6) (2-20b-2-4)
sere	스러	(2-1a-5-4) (2-19a-5-6) (2-21a-5-4) (2-24a-4-4) (2-26b-1-2)
sese 「金糸；鷹の墊板の中央に環にして結びつけた銀銅の糸」	서서	(2-6b-5-5) (2-13b-6-2) (2-16a-3-5)
si 「あなた」	시	(2-6b-3-2) (2-16b-1-2) (2-25b-2-1) (2-26a-2-4) (2-26a-4-2)
sindambi 「置く；放つ」	---	---
sindafi	신다피	(2-4a-6-3) (2-21a-6-5) (2-25a-6-4) (2-26a-1-2)
sindarakū	신다라쿠	(2-7b-4-2)
sini 「あなたの」	시니	(2-16b-6-1)
sio 「漢語秀」 (kung sio 「孔秀」)	쇼	(2-23b-4-2) (2-24a-1-9) (2-24a-2-3) (2-24a-5-5) (2-24a-6-4) (2-24b-4-2) (2-25a-3-4) (2-25b-2-5) (2-26a-3-3) (2-26a-6-7)
sioi 「漢語許」 (sioi cu 「許緒」)	쑤	(2-10a-5-4) (2-14b-4-1)
sioi 「漢語徐」 (sioi hūwang 「徐晃」)	쑤	(2-10a-6-1)
suilabumbi 「苦勞させる」	---	---
suilabume	쉬라부머	(2-13a-1-4)
suilambi 「苦勞する」	---	---
suilaha	쉬라하	(2-13b-1-2)
suje 「緞子」	수저	(2-5b-1-5) (2-19a-6-4)
sulaka 「やや疎な；心が和んでいる；少しく病状の良い」 ⁷³	수라카	(2-11a-1-4)

⁷² 原書の当該箇所では、「스머」ではなく「스미」と記されている。これは誤記であるか、あるいは墨の欠落によるものと考えられる。

⁷³ 当該語は『大清全書』および『増訂清文鑑』の見出し語では、それぞれ sulaka と sulakan と綴られている。『大清全書』における見出し語 sulaka 「安閑。寛放心之寛。」および『増訂清文鑑』における見出し語 sulakan 「畧鬆閑」、sulakan oho 「鬆快了」を参照されたい。『三譯総解』の当該箇所においては、満洲語文語の満洲文字表記は sulaka の形式であり、ハングル表記は印刷が不鮮明であるものの、「수라카」のよう

sunja 「五」	순자	(2-3a-1-6) (2-17a-4-2)
suwayan 「黄色い；戊」	쉬얀	(2-16a-2-5)
suwe 「あなたたち」	쉬	(2-1b-3-2)
suweni 「あなたたちの」	쉬니	(2-15a-5-3)
šahūn 「淡白色の；辛」	샤훈	(2-20a-2-4)
šangnambi 「賞する」	---	---
šangna	상나	(2-12b-6-8)
šarambi 「髭も髪も白くなる」	---	---
šarakabi	사라카비	(2-20a-2-5)
seo 「漢語寿」 (šeo ding heo 「寿亭侯」)	췌	(2-3a-5-2)
šoo 「漢語紹」 (yuwan šoo 「袁紹」)	췌	(2-4a-5-4) (2-11b-1-1) (2-24b-5-3)
taka 「暫く」	타카	(2-15b-6-3) ⁷⁴
takūrambi 「遣わす」	---	---
takūrafi	타쿠라피	(2-25a-5-4)
tanggū 「百」	탕구	(2-16a-5-2) (2-17a-4-3) (2-18b-1-6)
tasha 「虎；寅」	탓하	(2-4a-6-1) (2-25b-5-3)
tašarambi 「誤る」	---	---
tašarame	타샤라머	(2-17b-1-1)
tatambi 「引く；宿る」	---	---
tatafi	타타피	(2-8b-2-1) (2-16b-4-5)
tatame	타타머	(2-7b-4-4)
te 「今」	터	(2-11a-6-3) (2-25b-4-1)
te 「彼」 ⁷⁵	터	(2-3a-6-4)
tebumbi 「座らせる；住まわせる；職に就かせる；盛る；植える；納棺する；酒を作る」	---	---
tebuŋi	터부피	(2-23a-4-8)
tembi 「座る；住む」	텀비	(2-21a-6-7)
te	터	(2-21a-5-3)
tehei	터헤	(2-23a-2-3)
temšembi 「争う」	---	---
temšere	텀셔러	(2-25b-5-2)
teni 「今し方」	터니	(2-17a-5-2)

に見える。なお、岸田（1997: 163）によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』では、対応箇所の語形はいずれも *sulakan* である。

⁷⁴ 原書の当該箇所では印刷が不鮮明なため、「타카」が「티카」のように見えるが、本来は「타카」と書かれていたものと考えられる。

⁷⁵ 岸田（1997: 161）によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』では、対応箇所における語形はいずれも *ten* 「極み」であり、『満漢合璧三国志』における漢語の「極」に対応している。一方、『三譯総解』では *te* と記されており、*te de* に対応する原書の朝鮮語訳は「저의게」（彼に）である。岸田（1997: 74, 161）が指摘しているように、『三譯総解』の編集者が *ten* 「極」を *te* と見誤り、「彼」の意と解釈している。

tenteke 「そのような ; あのような」	턴터커	(2-5b-6-1)
tere 「その ; それ ; その人 ; あ ; あれ ; あの人」	터러	(2-3b-3-1) (2-3b-6-2) (2-4a-4-2) (2-5a-1-5) (2-5a-5-3) (2-6a-5-1) (2-7a-1-1) (2-13a-6-4) (2-14b-6-3) (2-16b-1-5) (2-16b-3-3) (2-18a-2-6) (2-19a-2-3) (2-22b-6-1)
tereci 「それ / あれ / 彼 / 彼女より ; それから ; さて ; やがて」	터러치	(2-15b-2-2) (2-19b-1-4)
tondo 「まっすぐな ; 公平な ; 忠誠な」	톤도	(2-3b-2-3) (2-13b-4-4)
ts'ai 「漢語蔡」 (ts'ai yang 「蔡陽」)	채	(2-1a-2-8) (2-1b-4-2) (2-4b-2-1)
ts'oo 「漢語曹」 (ts'oo cenghiyang 「曹丞相」)	초	(2-24b-5-5)
ts'oots'oo 「漢語曹操」	초초	(2-1a-2-1) (2-1a-6-1) (2-2a-2-2) (2-2b-1-1) (2-4b-3-1) (2-5a-5-1) (2-6a-3-1) (2-7a-3-2) (2-10a-4-1) (2-10b-1-3) (2-11a-2-1) (2-12a-3-1) (2-13a-2-2) (2-13b-3-3) (2-14a-4-1) (2-14b-6-1) (2-19b-3-3) (2-23b-4-3)
tubade 「そこ / あそこに ; そこ / あそこで」	투바더	(2-17a-3-2)
tucibumbi 「出す」	---	---
tucibufi	투치부피	(2-21a-1-1)
tucibure	투치부러	(2-25a-6-5)
tucimbi 「出る」	---	---
tucifi	투치피	(2-24a-3-3)
tucike	투치커	(2-15a-2-5) (2-20a-1-5)
tukiyembi 「持ち上げる ; 担ぐ ; 挙用する ; 称揚する ; 客に配膳する」	---	---
tukiyefi	투켜피	(2-12b-3-6)
tukiyehē	투켜허	(2-8a-1-5) ⁷⁶ (2-17a-2-1) ⁷⁷
tukiyeme	투켜머	(2-14a-6-6)
tumen 「万」	투먼	(2-13a-3-8) (2-15b-1-1)
turgun 「原因、理由」	톨군	(2-17b-5-2)
tuttu 「そのように ; あのように」	툼투	(2-4b-3-3) (2-4b-5-1)

⁷⁶ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。対応する満洲文字表記も印刷が不鮮明であり、ye の右側の付点が見られない。これは墨の欠落によると考えられる。なお、岸田 (1997: 162) によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』では、対応箇所における語形はそれぞれ tukiyehē と tukiyēke であり、後者は誤記であると考えられる。

⁷⁷ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

tuwabumbi 「見せる；見させる；見られる」	---	---
tuwabuki	투와부키	(2-12a-3-8)
tuwambi 「見る」	---	---
tuwaci	투와치	(2-8a-6-3) (2-10a-3-5) (2-16a-1-3)
uba 「ここ」	수바 ⁷⁸	(2-2a-1-5)
ubade 「ここに/で」	우바더	(2-17a-3-1)
ucuri 「折り、機会」	우츄리	(2-25b-5-5)
udu 「幾つ；いくら～(だとて)」	우두	(2-3a-4-2) (2-7a-4-2) (2-9b-5-4) (2-10a-1-5) (2-10a-4-3) (2-22a-1-2) (2-25b-6-4)
ujimbi 「養う」	---	---
ujihengge	우지형거	(2-3a-5-6)
uju 「頭；第一」	우쥬	(2-16a-2-3) (2-18a-3-5)
uksilembi 「鎧をつける」	---	---
uksilehe	옥시리허	(2-22a-1-3)
uksin 「鎧」	옥신	(2-8b-4-6) (2-23a-5-4)
ulin 「財物」	우린	(2-5b-1-6) (2-5b-5-1)
umai 「全く(～でない)」	우매	(2-9a-2-3)
ume 「否定命令標識」	우머	(2-5a-2-7) (2-6a-2-5) (2-9a-6-6) (2-12a-2-4)
umesi 「甚だ」	우머시	(2-6b-2-1)
unenggi 「誠；事実；誠実な；本当の」	우녕기	(2-5b-5-5) (2-7b-2-2)
unggimbi 「遣わす」	---	---
unggifi	웅기피	(2-8a-5-4)
unggihe	웅기허	(2-7a-6-3) (2-9b-4-3) ⁷⁹
unggirakū	웅기라쿠	(2-26a-1-3) (2-26a-3-1)
urgunjembī 「喜ぶ」	---	---
urgunjeme	울군저머	(2-20b-3-6)
urse 「衆人」	울서	(2-10b-1-1) (2-17b-3-1)
urunakū 「必ず」	우루나쿠	(2-9a-4-1) (2-25a-1-3) (2-26a-4-3)
uthai 「すぐに；即ち」	울해	(2-3a-5-1) (2-3b-4-3) (2-14b-2-4) (2-17b-4-2) (2-19a-3-1)
uttu 「このように」	울투	(2-11a-2-6) ⁸⁰ (2-21b-2-5) (2-25b-3-4)
wajimbi 「終わる」	---	---
wajirakū	와지라쿠	(2-12b-5-3)
waka 「～ではない」	와카	(2-4b-3-4) (2-6a-4-6) (2-20b-2-3)
waliyambi 「捨てる；吐き出す；展墓する」	---	---

⁷⁸ uba に対応するハングル表記は「우바」(uba) であると考えられる。しかし、『三譯総解』の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は「수바」(žuba) となっている。この誤記は、『三譯総解』の編集者が満洲文字の語頭の u を žu と誤認したことに起因すると考えられる。

⁷⁹ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

⁸⁰ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

waliyafi	와랴피	(2-3b-2-1) (2-16b-2-2)
waliyame	와랴머	(2-2a-5-1) (2-4b-5-2)
wambi 「殺す」	---	---
wafi	와피	(2-18a-3-2)
waha	와하	(2-4b-5-5) (2-20b-1-8)
waki	와키	(2-3b-5-3) (2-4b-2-5)
wasimbi 「降りる」	---	---
wasifi	와시피	(2-14b-3-5) (2-17a-6-3)
wasime	와시머	(2-16a-6-2) (2-18a-1-4)
we 「誰」	워	(2-20a-3-7)
weile 「罪 ; 事」	웨리	(2-2b-3-2) (2-3b-3-2) (2-4a-1-1) (2-4a-4-3) (2-18a-3-3) (2-18b-5-2)
wen 「漢語文」 (wen yuwan 「文遠」) (wen ceo 「文醜」)	원	(2-8b-3-1) (2-20b-1-5)
werimbi 「残す」	---	---
weri	위리	(2-26a-5-2)
werihebi	위리허비	(2-18a-6-4)
werihengge	위리헝거	(2-5b-2-3)
yabumbi 「行く、歩く ; 行う」	야븀비	(2-7b-2-1) (2-11a-3-1)
yabu	야부	(2-7b-6-5)
yabuhai	야부해	(2-17a-3-5)
yabure	야부러	(2-17a-6-5)
yafaha 「歩行」 ⁸¹	야파하	(2-16a-5-4)
yala 「誠に、果たして」	야라	(2-1b-1-1) (2-1b-2-6) (2-5b-3-1)
yalumbi 「乗る、騎乗する」	---	---
yalufi	야루피	(2-16a-5-1)
yaluha	야루하	(2-7b-1-2)
yalure	야루러	(2-3a-2-6)
yamjimbi 「日が暮れる」	---	---
yamjiha	얌지하	(2-19b-5-6)
yamun 「衙門、役所、官庁」	야문	(2-11b-3-2)
yan 「両(重さの単位)」	얀	(2-5b-3-3)
yan 「漢語顔」 (yan liyang 「顔良」)	얀	(2-20b-1-3)
yang 「漢語陽」 (hiyang yang 「襄陽」) (lo yang 「洛陽」) (ts'ai yang 「蔡陽」)	양	(2-17a-1-2) (2-23b-1-1) (2-1a-3-1) (2-1b-4-3) (2-4b-2-2)

⁸¹ 当該語は、『増訂清文鑑』では yafahan と綴られている。yafahan cooha 「歩兵」などの見出し語を参照されたい。一方、『大清全書』では yafaha と綴られている。yafaha 「歩行。徒行。」や yafaha cooha 「歩兵。」などの見出し語を参照されたい。『三譯総解』の当該箇所において、満洲文字表記・ハングル表記のいずれも yafaha に対応する形で現れている。なお、岸田 (1997: 163) によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』では、対応箇所における語形はいずれも yafahan である。

yargiyan 「本当の」	얄간	(2-26a-2-5)
yebelerakū 「気に入らない」	여버리리쿠 ⁸²	(2-1a-3-5)
yohindarakū 「藐視する、軽視する」 ⁸³	요힌다라쿠	(2-3b-6-1)
yokcin (yokcin akū 「体が小さくて生彩がない、みっともない」)	욕친	(2-4a-3-6)
yuwan 「漢語元」 (yuwan jiyan 「元俚」)	완	(2-17a-2-3)
yuwan 「漢語袁」 (yuwan šoo 「袁紹」)	완	(2-4a-5-3) (2-11a-6-6) (2-24b-5-2)
yuwan 「漢語遠」 (du yuwan 「杜遠」) (wen yuwan 「文遠」)	완	(2-17a-5-6) (2-18a-2-1) (2-19a-1-2) ⁸⁴ (2-8b-3-2)
yūn 「漢語雲」 (yūn cang 「雲長」)	원	(2-5a-3-5) (2-5b-2-4) (2-6a-3-3) (2-6b-1-1) (2-7a-2-4) (2-7a-6-4) (2-7b-6-1) (2-11a-2-3) (2-13b-4-2) (2-14a-3-4) (2-15a-6-3) (2-15b-6-1) (2-16b-3-1) (2-19b-3-1) (2-25b-1-1) (2-26a-2-1) (2-26a-5-3) ⁸⁵

⁸² 原書の当該箇所では、「여버리리쿠」ではなく「여버리리쿠」と記されている。これは誤記であるか、あるいは墨の欠落によるものと考えられる。

⁸³ 『満独辞典』(Hauer 2007: 531) では yohimbi をドイツ語の (1) Schorf bilden (瘡蓋ができる) と (2) sich kümmern um, sich kehren an (気にかける) と訳しており、例として清代文献における yohindarakū, fafun be yohikakū, gurun i fafun be yohindarakū, hafasa inu simbe yohindarakū ombi kai を挙げているが、これらはいずれも (2) の意味の例と考えられる。(2) の意味の yohimbi の用例については、『満独辞典』で挙げられた例からも明らかのように、清代文献に yohindarakū および yohikakū の形式が出現している。しかし、(2) の意味での yohimbi そのものの形式は管見の限り未見である。Захаров (1875: 201) や Цинциус и др. (1975: 346) も yohindarakū と yohikakū の形式に言及している。Yang (2025: 73) は動詞語幹 yohin- を想定し、これに付く未完了連体接辞(原文では nonpast participle suffix 「非過去分詞接尾辞」)は -ndArA であると述べている。

(1) の意味については、『大清全書』には yohimbi 「結痂。」が収録されているが、この意味の yohimbi は『増訂清文鑑』には収録されていない。また、『満露辞典』(Захаров 1875: 201) の見出し語 yohimbi にも、これに関係すると考えられる解釈が見られる。

さらに、『大清全書』および『増訂清文鑑』のいずれにも johimbi が収録されており、その意味は yohimbi の (1) の意味と関連性があると考えられる。具体的には、『大清全書』の johimbi 「瘡口收了愈了」および『増訂清文鑑』の johimbi 「收口」を参照されたい。

以上の二つの意味の yohimbi ([1] と [2]) および johimbi ([3]) をまとめると、次表のようになる。[2] の yohimbi に括弧を付したのは、その意味における yohimbi という語形自体が清代文献には見られないためである。

表 4 : yohimbi および johimbi の出現例

		『大清全書』	『増訂清文鑑』
[1]	yohimbi 「瘡蓋ができる」	yohimbi 「結痂。」	---
[2]	(yohimbi) 「気にかける」	yohindarakū 「不服。欺人。不遵。慢。藐視。不理。」	yohindarakū 「藐視」
[3]	johimbi 「傷口が塞がる」	johimbi 「瘡口收了愈了」	johimbi 「收口」

上表の [1] の yohimbi と、[2] の yohimbi は、語源的には無関係である可能性が高い。一方、[1] の yohimbi と [3] の johimbi は、語源的に関係している可能性があるが、なお検討を要する。

⁸⁴ 原書の当該箇所における満洲語文語の満洲文字表記・ハングル表記はいずれも印刷が不鮮明である。

⁸⁵ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

参考文献

<日本語文献>

- 池上二良 (1951) 「滿洲語の諺文文献に関する一報告」『東洋學報』33(2): 97-118.
- 池上二良 (1954) 「滿洲語の諺文文献に関する一報告 (承前)」『東洋學報』36(4): 57-74.
- 池上二良 (1963) 「ふたたび滿洲語の諺文文献について」『朝鮮學報』26: 94-100.
- 今西春秋 (1958) 「漢清文鑑解説」『朝鮮學報』12: 21-58.
- 王海波 (2026) 「『三譯總解 (第一)』 ハングル表記滿洲語文語索引」『KOTONOHA』278: 1-30.
- 小倉進平 (1914a) 「朝鮮に於ける日漢滿蒙語辭書」『朝鮮及滿洲』83: 40-46.
- 小倉進平 (1914b) 「朝鮮に於ける日・漢・滿・蒙語讀本」『東洋學報』4(2): 244-266.
- 菅野裕臣 (2005) 「朝鮮司訳院の清學書のハングル対音の性格について」『韓国語學年報』1: 1-8.
- 岸田文隆 (1989) 「清學書に現れた滿洲語ハングル表記について：特に滿洲字 e に対する 2 通りのハングル表記をめぐって」『言語学研究』8: 17-38.
- 岸田文隆 (1997) 「『三譯總解』の滿文にあらわれた特殊語形の来源」東京：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.
- 園田一亀 (1938) 「李成梁と其の一族に就て」『東洋學報』26(1): 89-120.
- 田村實造・今西春秋・佐藤長 (1966-1968) 『五體清文鑑譯解』京都：京都大學文學部内陸アジア研究所.
- 羽田亨 (1937) 『滿和辭典』京都：京都帝國大學滿蒙古調查會.
- 福田昆之 (2008) 『増訂滿洲語文語辭典』横浜：FLL.
- 綿貫哲郎・兒倉徳和・加藤基嗣・相原佳之・高井秀招・半田真士・神谷秀二・池田修太郎 (訳編) (2023) 『内国史院檔：順治元年 I・II 合冊本』東京：東京外国語大学アジア・アフリカ研究所.

<韓国語文献>

- 두산동아 사서편집국(1994) 『동아 프라임 韓日辭典』서울: 두산동아.
- 성백인(1984) 「譯學書에 나타난 訓民正音 使用: 司譯院 清學書의 만주어 한글 표기에 대하여」『한국문화』5: 21-63.
- 邵磊(2011) 「『漢清文鑑』을 통해 본 滿文의 한글表記法」『中韓文化關係國際學術會議論文集』290-308.

<中国語文献>

- 崔宰宇 (1997) 「『漢清文鑑』의 編排體例和語音轉寫」『中央民族大學學報 (社會科學版)』1997(3): 82-89.
- 恩和巴圖 (1995) 『滿語口語研究』呼和浩特：內蒙古人民出版社.
- 季永海・劉景憲・屈六生 (1989) 『現代滿語八百句』北京：民族出版社.
- 邵磊 (2016) 「清-朝鮮時期漢・滿・韓互譯中的文字對音：以『漢清文鑑』滿文的韓文表記法為例」『編譯論叢』9(2): 57-92.
- 邵磊・多麗梅 (2022) 「海外中國典籍的多語轉寫研究：以『清語老乞大』漢語-滿文的朝鮮文轉寫為例」『東方語言學』2022(2): 17-25.
- 邵磊・多麗梅 (2023) 「『三譯總解』滿文的朝鮮文轉寫研究」『滿學研究』2023: 195-204.
- 邵磊・金龍軍 (2022) 「清代滿朝對音文獻中的特殊轉寫：以滿文-w 系復元音的朝鮮文轉寫為中心」『民族翻譯』2022(4): 77-86.

邵磊・林茶英 (2022) 「論朝鮮清學書滿朝對音中の音節對稱與不對稱」『滿語研究』2022(2): 69-74.

邵磊・任國俊 (2023) 「清學書中の朝鮮文『圈點字』研究」『民族翻譯』2023(3): 78-88.

邵磊・王敵非 (2022) 「『清語老乞大』滿文的朝鮮文轉寫研究」『滿族研究』2022(2): 89-95.

王敵非 (2013) 「『清語老乞大』滿朝對音研究」『黑龍江民族叢刊』2013(6): 155-158.

<英語・ドイツ語文献>

Hauer, Erich. (2007) *Handwörterbuch der Mandschusprache, 2., durchgesehene und erweiterte Auflage herausgegeben von Oliver Corff*. Wiesbaden: Harrassowitz.

Ikegami, Jiro. (1990) Significance of Korean materials in the study of Manchu. *Altai Hakpo*. 2: 71-77.

Lie, Hiu. (1972) *Die Mandschu-Sprachkunde in Korea*. Bloomington: Indiana University.

Rozycki, William. (1983) Mongol Elements in Manchu. Doctoral dissertation. Indiana University.

Yang, Jaeyeong. (2025) *Diachronic Morphology of Consonantal Stems in Jurchen and Manchu*. Ph.D. dissertation, Seoul National University.

<ロシア語文献>

Захаров, И.И. (1875) *Полный Маньчжурско-Русский Словарь*. СПб.: Типография Императорской Академіи Наукъ.

Цинциус, В.И., В.А. Горцевская, В.Д. Колесникова, О.А. Константинова, К.А. Новикова, Т.И. Петрова и Т.Г. Бугаева. (1975) *Сравнительный словарь Тунгусо-Маньчжурских языков: Материалы к этимологическому словарю. Том I*. Л.: Наука.

An Index to the Written Manchu Words Transcribed in Hangul
in the Second Volume of *Sam-yŏk Ch'ong-hae*

Haibo WANG
(Lingnan Normal University)

Keywords: *Sam-yŏk Ch'ong-hae*, Hangul Transcription, Written Manchu

Sam-yŏk Ch'ong-hae is one of the books compiled by the Bureau of Interpreters during the Joseon Dynasty in Korea. In this work, Written Manchu words were recorded in both the Manchu script and the Hangul transcription. Notably, the Hangul transcriptions do not always correspond directly to their Manchu script counterparts, suggesting that they may reflect phonetic nuances not fully represented in the Manchu script. This paper presents a Möllendorff-transcription-based index of Written Manchu words found in the second volume of *Sam-yŏk Ch'ong-hae*. By aligning the Hangul transcriptions with their equivalents in the Manchu script (represented in Möllendorff transcription), the index serves as a practical reference for exploring script correspondences and phonological details of Written Manchu.

(おう・かい は boljon@163.com)